

学術情報センター ニュース

第 19 号目次

《研究開発》

- アメリカの日本情報源をめぐる動向…… 2
- 第3回CJK-JRGと
統合化漢字レパトリ…… 6
- EXIRPTS 第10回会議…… 7
- 第15回国際オンライン情報会議に
参加して…… 8
- 日本における国際書誌調整
第11回公開講演会…… 10
- 《NACSIS サービス案内》
- 平成4年度におけるサービス休止予定…… 12
- ILL システム運用開始のお知らせ…… 13
- SINET の概要および加入手続き…… 14
- 家政学文献データベースの
サービス開始…… 19
- 雑誌記事索引データベース及び
国会図書館科学技術欧文会議録
データベースのサービス開始…… 20
- データベースシートの発行…… 21
- 学術雑誌総合目録欧文編（新版）の
調査概要…… 21
- 学術雑誌総合目録和文編
1991年版の刊行…… 22
- 目録所在情報サービス利用者の
範囲拡大と利用説明会の開催…… 23

- 平成3年度 NACSIS-IR 利用
端末調査（報告）…… 24
- 平成3年度 NACSIS-IR 利用者
懇談会（報告）…… 26
- 学術情報ネットワーク（パケット交換網）
加入機関…… 27
- 学術情報ネットワーク・パケット
交換網のノード設置計画完了…… 28
- NACSIS-BBS 掲示板一覧…… 28
- 国際電子メール…… 30
- 目録システム接続ニュース…… 30
- NACSIS-IR データベース収納状況…… 31
- NACSIS-CAT データベース構築状況…… 32
- 《教育・研修》
- 平成3年度学術情報センター・
シンポジウム（大阪会場）開催…… 33
- 平成3年度教育・研修事業報告…… 38
- 平成4年度研修事業計画…… 40
- 研修等への参加手続…… 44
- 《その他》
- 平成3年度後期における会議等の開催…… 46
- 人事異動…… 47
- 学術情報センター日誌…… 48

アメリカの日本情報源をめぐる動向

— 海外出張報告 —

学術情報センター教授

いの うえ ひとし
井 上 如

1. これまでの調査

平成2年度の後半から平成3年度を通じて、文部省科学研究費補助金の国際学術研究（学術調査）「学術情報システムの国際化に関わる海外学術情報流通調査」と、同じく（共同研究）「東アジア文字データの国際交換に関する実証研究」の一環として海外の日本情報源調査を実施してきた。

国際社会における日本の相対的な重要性が高まるに連れて、海外からの日本情報への需要は日毎に高まりつつある。日本側の対応も具体化し、多様化している。そうした中で、もともと現地にある日本情報源はどう役に立っているか。利用者にとって、日本からオンラインで情報を取り寄せたり、必要の都度来日して調べて帰るのと比べて、もともと現地にある日本情報の蓄積はどう役に立っているのか。

学術情報センターは、国内の日本情報源には重宝して頂いている。それなら海外の日本情報源の情報サービスもお手伝いできるはずである。それは何か、というのが関心であった。

現状を知るために、数次に互って海外の状況を調べた。それらは：

- 01) 韓国調査 韓国精神文化研究院他10機関（平成2年11月29日—12月6日）
- 02) 欧州調査 英国図書館他16機関（平成3年1月6日—27日）
- 03) アメリカ調査（第1次） コロンビア大学東アジア図書館他10機関（平成3年2月16日—3月3日）
- 04) 中国調査 中国国家図書館他8機関（平成3年9月7日—21日）

の4調査旅行である。その結果は、学術情報センター紀要第4号に、「欧米日本語コレクションの日本情報源としての再評価」と題して報告した（*1）。

そこでは、欧米の日本語コレクションの日本情報源としての可能性を評価する基準として、01) 図書と雑誌の対比、02) 文献の取扱い単位、03) 総合目録の発達、04) エキゾチシズムからの自由、05) 日本情報源としての英文文献、06) 主題アクセスの措置もしくは主題図書館員の業務、07) custodyの孤立を設定し、それらを作業仮説として用いながら調査をした。その結果これらの基準は、改めて、01) 国際語と Vernacular の二重構造、02) エキゾチシズムとの間の距離（現代日本研究か否か）、03) 書誌コントロール、04) 主題アクセス、05) CJK 対応（日本語・中国語・韓国語を同時に処理するか、個別に扱

うか)の5つに整理出来ること、新たな概念枠として、現地の日本語コレクションを、1.「日本研究」のためのコレクション、2.(日本を含む)「地域研究」のためのコレクション、3.(日本を含む)「国際研究」のためのコレクションに類型化する試みを提出しておいた。

2. アメリカの日本語コレクションの最近の動き

平成3年年初のアメリカ調査の際、アメリカの日本情報源に、ある種の危機感がみなぎっているのが分かった。実際それは1970年代後半から始まってはいたのだが、危機感が高まるに連れて、それを乗り越えようとする今までとは異なる動きが顕著となってきたようだ。そこで改めて、短期間ではあるがアメリカの状況を訪問調査した。

05) アメリカ調査(第2次) アメリカ議会図書館他4機関(平成4年1月12日-22日)

以下に、最近の鍵になる出来事や文献の紹介も兼ねながらアメリカの近況について紹介したい。

アメリカの日本語コレクション作りを主としてサポートしてきたのは、日本の国際交流基金(Japan Foundation)と、アメリカの日米友好基金(Japan-US Friendship Commission)である。ことの起こりは(遡れば更にあるが)、この日米友好基金が、1990年秋に、それまで援助してきたコロンビア大学、ハーバード大学、ミシガン大学、カリフォルニア大学バークレイ校等主要大学の日本語コレクションに対し、コレクション作りへの直接援助から資源共有のための技術応用の援助へと方針変更(shift from support for direct acquisitions to support for resource sharing in applications of technology)を宣言したことである。これはコレクション作りを日米友好基金の援助に大きく依存していた(fundに依存し過ぎることそれ自体問題ではあるが)これら日本語コレクションに大きな衝撃を与えた。日米友好基金の方針変更の背後には、1)日本語文献の出版点数の増加、2)円に対するドルの値下がり、3)新技術による危機の克服の3つがある。

日米友好基金は、アメリカの大学図書館に対する援助に同様の危機感を持っていた国際交流基金と呼応して、昨年6月28日にワシントンで、両者共催で対策協議の会議を開いた。その際、日米友好基金に対し、テネッシー大学のDianne Perushekが昨年3月に提出した報告書(通称Perushekレポート*2)が検討材料になった。このレポート(39p.)は、1)問題の背景、2)日本における学術文献の発生状況、3)アメリカの日本語コレクションのサイズと成長、4)アメリカの図書館に導入されている新技術、5)日本語図書館の機械化の状況、6)アクセシビリティ確保の状況、7)スタッフの問題、8)資料保存、9)目録と滞貨問題、10)傾向と戦略、11)考察の各部分からなる。このレポートは問題状況は広く、正しく理解している。しかし、米国内の類似の環境に対しては新技術をもって対応し得たのに、日本語文献については何故同じことが実行できないかについて、原因を正しく捉えながらも有効な策を提示し得ないままになっている。従って(この〈従って〉には飛躍があるが)、折角のワシントンでの会議も不調に終わった。

危機感を更に強めた日本語コレクションは、再度日米友好基金から援助を引き出して、昨年11月7日から9日まで、スタンフォード大学フーバー研究所で対策を協議した

(Conference on National Planning for Japanese Libraries)。日本からの 4 名のオブザーバーを加えて40名が参加した。この会議では、大きく 3 つの領域：

coordinated collection development ;
improved access ;
training and recruitment of librarians ;

が討議された。その結果、9つのタスクフォースが組織され、それらの検討内容を6人のメンバーから成る national planning team が1本のプロポーザルにまとめ、日米友好基金に提出することとなった。9つのタスクフォースとは：

- 01) 地域毎（東岸、西岸、中西部）のドキュメンテーション分担
- 02) 高額文献の分担収集
- 03) 逐次刊行物の分担収集
- 04) 新聞バックナンバーの分担収集
- 05) その他将来の分担可能な領域の策定
- 06) 遡及入力
- 07) アクセス改善
- 08) 日本のデータベースへのアクセス
- 09) 日本語図書館員の養成

である。この一本化されたプロポーザルは、更に高次の、National Coordinating Committee に付託され、優先順位や援助手段等について検討が行われているところである。

こうした新しい事態の特徴は、フォーバー研究所での会議の表題に現れているように、おそらくアメリカの日本語コレクション史上初めて、ナショナル・プランが必要だという段階にたち至ったと言う認識であろう。援助をする側も、受ける側もそれが必要だという共通認識が出来、その上でのナショナル・プラン作りというこれまでになかった新しい事態である。

一方、アメリカの議会図書館（Library of Congress）には少し別の動きがある。主として米国議会に対して、日本情報を提供するための新しい仕掛として、Japan Documentation Center を設立しようとしている。この動機は、LC 以外の日本語コレクションがナショナル・プランを必要とし始めた動機とは違って、LC の議会調査局（Congressional Research service = CRS）からの米国議会への日本情報サービスが十分でないという認識から、情報源を強化せよという議会の要請に基づくものだという点にある。主題分野としては日本のパブリック・ポリシー、政治、経済、軍事に互り、情報源としては、政府刊行物、シンク・タンク等の作成資料、いわゆる“灰色文献”にウエイトが置かれている。そこで、日本からも資金援助を得て、新たに、LC の東アジア部日本語資料課に、Japan documentation Center を設置し、併せて東京にも事務所を設けて、日本に関する日本語、英語の文献収集、米国への輸送、日本イッシューに合わせた解析、CRS 担当者のプロフィールに合わせた提供をする事業を始めようとしている。（LC が東京に事務所を開設す

るのは初めてのことでない。趣旨は異なるが、前例がある。現在も類似の試みはインドや、ロシアで行われているとのことである。) 順調にことが運べば、年度内には正式に発足し、来年度からは具体的な準備にとりかかるとのことである。

LC は、この事業の本来の目的である議会調査局へのサービスだけでなく、米国で同様の情報を必要としている現代日本研究機関へのサービスももくろんでおり、そのための新しいユティリティについても、検討に入っているとのことである。

3. 考察

計画は進行中であり、性急な評価は許されない。ここでは、今回知り得た米国内の新しい状況が、これまでの調査から次のステップへ踏み出すために想定しておいた新たな概念枠にあてはめてどう理解されるかについてだけ述べる。

- 01) LC の計画は、アメリカにいて日本からの情報の伝来を待つのでなく、日本に出向いて、LC の autonomy のもとに必要な文献を直接収集しようとするのが特徴で、新しいインターナショナルな関心である。
- 02) アメリカの日本研究機関の日本語コレクションの試みは、国内での分担収集を目指すもので、ナショナルな関心である。各大学ごとの努力や地域協力では間に合わないと言う現実を踏まえた初の試みではあるが、LC の新しい試みと比べるとなお、ナショナルな関心である。
- 03) インターナショナル、ナショナルという違いはあっても、所有とアクセスという視点からみると、どちらも所有に対する執心が有るように思われる。それが何故なのかを考える際に、科学の情報やビジネスの情報は、日本からのオンライン・サービスを重視する、言い替えれば所有よりもアクセスを重視する傾向があることと対比させて考えるのが有効ではないか。
- 04) LC は、地域研究の対象としての日本と言うレベルに関心を集中し、サービスの目標は CRS である。一方、他の日本研究機関のナショナルなレベルでの分担収集という新しい試みは、研究者の研究協力体制という側の状況把握が必要のように思われる。

(アメリカの新しい動きに対する日本側の対応については別の機会に触れたい。また、改めてクローズアップされてきた「国際語と Vernacular」の問題は極めて重要であり、稿を改めて考察したい)

参考文献

- 01) 井上 如 “欧米日本語コレクションの日本情報源としての再評価” 学術情報センター紀要 4:177-259 1991.12
- 02) Perushek, Dianne E. The state of Japanese collections in United States research libraries, 1990. 1991.3. 39p. (Prepared for the Japan-United States Friendship Commission) (unpublished)

第3回 CJK-JRG と統合化漢字レパートリ

学術情報センター教授

みや ざわ
宮 澤あきら
彰

はじめに

91年11月末に香港で第3回の CJK-JRG が開かれ、中国、日本、韓国の統合化漢字レパートリが作成された。この会議に筆者は日本代表の一人として出席したので結果について報告し、若干の展望を述べる。

CJK-JRG (China, Japan, Korea joint research group) は、国際標準機構 ISO で進めているユニバーサル文字コードに入る予定の漢字のレパートリを作成している会議である。この会議の成立や構成についてはセンターニュース17号の第1回 CJK-JRG の報告記事に記してあるのでそちらを参照されたい。第2回は北京で9月に行われ、統合化の作業が進められてきた。今回の第3回は香港の城市理工学院で11月25日～29日に行われ、第2回で作成されたドラフトの最終レビューを行い、ISO に送るレパートリを確定することが目標であった。

会議の主な結果

今回の会議は統合化とその配列のチェック作業に多くの時間を割き、予定通り漢字の統合化レパートリ第1版がリリースされた。このレパートリは中国、台湾、日本、韓国の各標準コードを並列した対応表の形をしている(図参照)。また、一方、レパートリに付属する解説 (Explanatory note) の編集も行われた。

今後の見通し

このレパートリは ISO のユニバーサル文字コード 10646 の国際標準案第2版の漢字部分としていれられて、5月終わり頃までの投票にかけられる予定である。この文字セットが国際標準として成立し、一般に普及することになれば、多言語、多文字種の目録データベースを実現する手段としてもっとも有力である。とはいえ、文字コードが決まってもそれがすぐに実際のシステムの中で利用可能というわけではない。今後の各メーカーの実装の進展をにらみながら対応をとっていく必要があると考えている。

134/106 Hex866A	迎	迎	迎	迎
	0-532D	1-4F52	0-375E	0-674A
	0-5113	1-4750	0-2362	0-1142
134/107 Hex866B		込		
		E-2A74		
		E-1084		
134/108 Hex866C	运		运	
	0-544B		1-613D	
	0-5243		1-6529	
134/109 Hex866D	近	近	近	近
	0-3D7C	1-4F54	0-3661	0-504E
	0-2992	1-4752	0-2265	0-4846
134/110 Hex866E	远	远	远	
	3-7159	2-286C	1-613E	
	3-8157	2-0876	1-6530	
134/111 Hex866F	迓	迓	迓	迓
	0-6542	2-286E	1-613F	1-662A
	0-6934	2-0878	1-6531	1-7010

EXIRPTS（研究情報の国際交換に関する専門家会合） 第10回会議（イタリア ミラノ市）

学術情報センター研究開発部長

やま だ ひさ お
山 田 尚 勇

事業部データベース課課長補佐

ゆ ら のぶ みち
由 良 信 道

EXIRPTS（Exchange of Information on Research Projects：関連記事は本センターニュース13, 14, 16号参照）会議が、本年2月3日～5日にわたり、イタリア第二の都市であるミラノ市において、CNR（Consiglio Nazionale delle Ricerche）を世話機関として開催された。

今回は、本会議の上部機構であるプレジデント会議（G7における研究助成を行う政府機関等の長による会議）から、昨夏、EXIRPTS会議に対して要請された事項に関して、最終的な協議を行うために開かれたものである。

会議では、各機関が所有する研究プロジェクトに関する情報を全機関が同一条件の下に一括して交換するとした現行の「EXIRPTS会議」を、プレジデントの要請に従って閉じることとし、これまでの経緯とEXIRPTSの実施によって得られた成果を最終報告としてとりまとめ、プレジデント会議へ提出することとした。

なお、この報告と同時に、EXIRPTSは、これまでの活動において多大な成果を収めていることや、今後とも活動を継続するに当たり、さしたる障害のないことなどから、EXIRPTSの活動構造を次のとおり組み換えることにより、引続き活動することについて、機関長としての各プレジデントに提案することとした。

1. EXIRPTS実施要項に基づく、全機関による一括提供方式から、参加機関が個々に合意を交わす個別交換方式への移行
2. プレジデント会議にリンクしたEXIRPTS会議を廃止し、各機関の代表により、技術標準（データ交換用プロトコル、ダイナミックシソーラス等）に関する検討を行うための新たなEXIRPTS体制を形成

本提案によって、今後のEXIRPTS活動は、いわゆるバイラテラル交換によるサービスとなる予定であるが、本センターは、各参加機関と協議しながら、カタログデータ交換の継続及び本体データの交換によるEXIRPTSの拡充に向けて努力することとしている。

なお、ベルギー、EC委員会組織、アジア、スカンジナビア諸国を始めとする多くの国の機関から、EXIRPTS参加への関心が寄せられているとの報告があった。

第15回国際オンライン情報会議に参加して

学術情報センター助手

きむ よん うおん
金 容 媛

1992年12月10日から12日までロンドンで開かれた「国際オンライン情報会議」に参加する機会をえたのでその概要を報告する。

Learned Information 社が主催する国際オンライン情報会議は毎年12月に3日間の日程でロンドンで開催される。第15回目である今回の参加者は、初日配布された名簿によるとヨーロッパ全域とアメリカから2,500名を越えていた。

参加費は会議録と全日程参加できる(1) Full Delegate が452ポンド(約10万円・晚餐会1回を含む)(2) Academic Delegate は226.19ポンド、当日参加の場合は182ポンドであった。Proceeding は48ポンド、展示観覧のみは5ポンドであった。日本からは、例年1～4件の論文発表があり、数名程度、参加していたようであるが、今回は論文発表はなく、参加者もブリティッシュ・カウンシルの支援により参加することになった私を含めてヨーロッパ駐在の JICST (STN International) と Nikkei Europe の3名であり、当日参加の日本人が数人いた。

参加者は主に、情報専門家、図書館員、出版社、データベース作成機関、ネットワークの関係者などで、昨年の参加者が約8,000名と報告されているほどの大規模の会議である。会場は Hammersmith にある Olympia Conference Center で地下鉄の Kensington (Olympia) 駅に近く、宿舎であるフォーラム ホテルからはシャトル・バスのサービスがあり便利であった。

会議は論文発表、プロダクト・レビュー、チュートリアル／テクニカル・セッション、展示が並行して催された。発表論文は総52件で、4～5件がセッションにまとめられ、1件当の発表時間は20～30分であった。

第1日は、基調講演とデータベースシステム、化学情報システム、ビジネス情報の3つにわかれ、13件の発表があった。第2日は、情報検索、情報専門家の教育・訓練、ネットワーク、オンライン情報産業、ハイパ／マルチ・メディアシステム、情報管理の6つのセッションで22件の発表がなされた。最終日にはオンライン市場と開発、情報の要求と利用、情報の価値・費用、情報技術、知識情報管理の5つのセッションで17件の発表がなされた。

チュートリアル／テクニカル・セッションでは、マルチメディア・コミュニケーション、JANET、Desktop Publishing、CD-ROM データベース探索、CD-ROM の設置の5分

野に分けて行われた。展示は会議場の2, 3階に140店が会場地図に示されており、デモンストレーションやパンフレット流の資料も豊富に用意されていた。一度では全部見て回り切れなくて毎日昼食後、道に迷ったりしながら気分転換をかねて見て回った。

オンライン・ユーザ会の会合は、提供者と利用者の意見や情報の交換が目的であり、その他に、フランス、ドイツ、イタリア語の言語別セッションがあった。会議の前日に訪問したBLも出展しており、BLAISE-LINE, BLASE-LINK, BLAISE-Recordsなどのデモンストレーションをすべて見られたのは収穫であった。

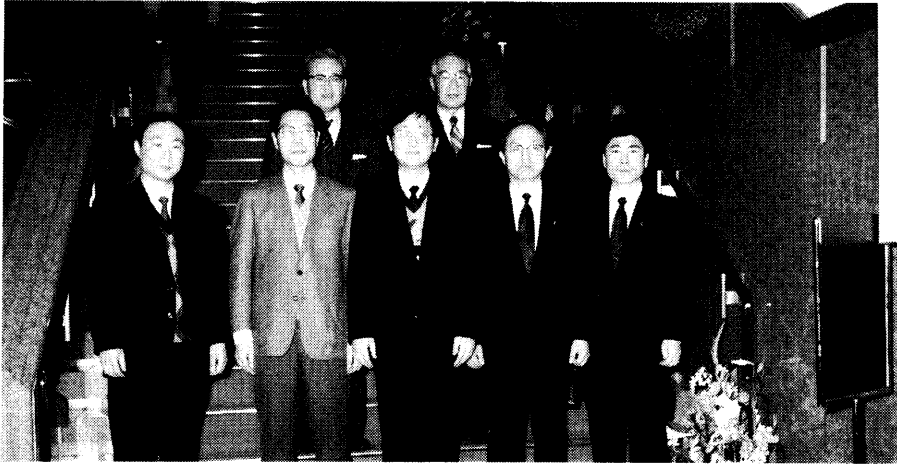
プロダクツ・レビューは、2つの会場のわけて約90件の発表が行われ、新製品や新サービスの紹介で参加者の関心が集まるようであった。オンライン情報サービスの競争以外にも、これからの利用増大が予想されるCD-ROMの利用、データベースの品質管理の問題、第3世界との情報の格差等のが“ホット・イシュー”のようで、それらの問題に対する発表と質疑が多かったように見受けられた。

5日間の滞在の中で、1日はボストン・スバにあるBLDSCを見学した。ブリティッシュ・カウンシルのアレンジによって日本書籍輸入協会一行と同行することになった。キングス・クロス駅から2時間の予定だったが、途中で電車の故障により4時間かかってやっとついた。映画“嵐が丘”を思わせるような白い霧のなかの幻想的な風景に圧倒され寒さも忘れるくらいだった。おなじみのJane IrisaさんからDocument Delivery Centreについて、National Bibliographic Service, ADONISなどについても担当者から説明を聞いた。お茶の時間に、建物の中に職員食堂とは別に“PUB”をみかけたので聞いてみたら、ここは“isolated island”のようなところですから、職員のストレス・マネジメントの一つとして必要であると聞かされて納得した。帰りにもまた電車の遅れで予定より2時間遅れた。BLで膨大な量のサービスを迅速に行っているのに感心し、BRのサービスにも感心した。翌日オクスフォードからの帰りにも信号故障だということで2時間遅れた。

次の日はシェラトン・ストリートにあるBL R&Dを訪問、International Office ManagerであるMs. Ros Cottonから全般的な説明を聞き、歩いてグレート・ラッセルストリートにある大英博物館の閲覧室まで案内してくれた。BLのGalleryでモーツァルト没後2百周年記念展示会が開かれていたのは幸運だった。午後はオクスフォード大学ボドリアン図書館を訪問、丁度Japan Festivalの一環として日欧交流関係所蔵展が開催されており、その準備を担当されたIzumi Tytler女史から直接説明を聞くことができてとても嬉しかった。

最後にこのような貴重な機会と様々な助言と協力を頂いたブリティッシュ・カウンシルのMs. Clarkeと西田俊子様にこの場を借りて厚くお礼を申し上げる。

日本における国際書誌調整第11回公開講演会



学術情報センターは文部省科学研究費の助成を受けて標記の研究調査を1989年から3年間にわたり実施してきた。その最終講演会となる第11回公開講演会が1992年1月29日（水）午後約150名の参加を得て、東京医科歯科大学5号館講堂で開催されたのでその概要を報告する。

センター所長猪瀬博の開会挨拶に続き、第一部の招へい講演では「中国科学技術情報研究所の現状と開発計画（Current Status and Development Plan of ISTIC）」と題して、中国科学技術情報研究所の計画業務処副処長である張保明（ZHANG Bao-ming）氏が同研究所の最近の状況と将来の計画について報告した。紀昭民（JI Zhao-min）中国科学院文献情報センター副研究館員は「中国科学院書誌文献データベースの構築とサービス（Bibliographic Database Construction and Services at the Chinese Academy of Sciences）」と題して講演し、中国科学院の文献情報システムについて、データベースを中心にその構築とサービス



張保明氏



紀昭民氏

状況を具体的に紹介した。さらに中国国家図書館自動化発展部の翟喜奎（ZHAI Xi-kui）氏は「中国 MARC の利用（Utilization of the ChinaMARC）」と題し、中国 MARC の発展過程、特徴と他の MARC との関係など関連状況を詳細に述べた。

韓国国立中央図書館の鄭熙川（CHUNG Hee-chun）館長は「韓国における図書館政策の展開と国立中央図書館の位相（The Conversion of Library Policy and Phase of the National Central Library in Korea）」と題し、1991年の図書館振興法の制定にともなう図書館政

策の転換と強化された国立中央図書館の機能と役割について講演した。

第二部の国際共同研究の総括では、「海外の日本情報源調査」と題し、センターの井上如教授が海外における日本語コレクションの現状を調査し、それらが現地で高まりつつある日本情報へのニーズに対応する際の問題点を分析し、その解決のための支援策を策定するためにいままでに訪問調査を行った韓国の11機関、ヨーロッパ（英独仏合計）17機関、アメリカ（第1次）11機関、中国9機関、アメリカ（第2次）6機関の調査内容と問題点、これからの展望と海外の日本情報に関する



翟喜奎氏

最近の動きについて報告した。



鄭熙川氏

センター宮澤彰教授は「東アジア書誌情報国際交換の技術的基礎」と題し、NACSIS-CATの中国語韓国語の扱いを中心として、日本の環境の中での中国書籍、韓国・朝鮮書籍の処理についての現況と今後の技術的課題などを報告し、今後の東アジアでの学術情報流通に大きく影響するものであるという、この研究のこれまでの経過や問題点等をまとめて報告し、問題の解決には今少し時間を要するとの見通しを示した。またCJK-JRG（漢字コードに関する国際会議）の日本代表

の1人でもある同教授はCJK-JRGが91年7月からISOで作成中のユニバーサル文字コード10646にに入れるための漢字の統合化レパートリを作成しており、12月の香港における会議でそのレパートリはフィックスされたこと、現在中国の拡張要求や韓国からの新しい漢字要求とメンテナンス方法が決まっていないことなどの報告があった。

最後に研究代表者である山田尚勇研究開発部長が「国際共同研究総括報告」として、この研究の具体的な課題を、1）漢字コードの国際的標準化の可能性 2）中国、韓国、日本語の情報・文献の状況調査



井上如氏

3）中国・韓国の専門家によるケース・スタディ 4）書誌調整方法の確認・分析と国際交換可能性の追求 5）わが国の学術情報システムの改善という5つの側面で考察し、これらの背景および成果と今後の課題について説明した。さらに、この研究に助成をいただいた文部省をはじめ多くの個人、団体、企業からの支援と協力に対し、また海外訪問調査において外国の多くの機関と個人から支援をいただいたことに感謝の意を表した。センター研究開発部内藤衛亮教授が、発表者と参加者に謝意を表し、閉会の挨拶とした。



宮澤彰氏

公開講演会の記録として1991年度に初年次（第1巻）、二年次（第2巻）の分を出版し、国の内外の関係方面に送付しており、三年次分および別の3年間の科研費報告書も年度内に出版する予定である。（文責：金容媛）。



山田尚勇氏

平成4年度におけるサービス休止予定

平成4年度において、各サービスの休止を以下のように予定しています。

なお、これ以外に停止することが発生したときは、その都度、各システムのニュース等でお知らせいたします。

サ ー ビ ス		休 止 日
目録所在情報サービス		・土曜日、日曜日、国民の祝日及び振替休日 ・毎月第4木曜日の正午以降 ・年末年始（おおむね、12月28日から1月4日まで） ・3月31日
情報検索サービス		・土曜日の14時以降 ・日曜日、国民の祝日及び振替休日 ・年末年始（おおむね、12月28日から1月4日まで） ・3月31日
電子メールサービス		・以下の日程の17時から23時 4/30(木) , 5/29(金) , 6/25(木) , 7/31(金) , 8/27(木) , 9/30(木) , 10/30(金) , 11/30(月) , 12/ 末 , 1/29(金) , 2/26(金) , 3/31(水)
学 術 情 報 ワ ー ク	パケット交換網 (アクセスポ イントを含む)	・以下の日程の13時から17時 6/25(木) , 8/27(木) , 3/31(水) ・12月末日の4日間程度
	SINET	・12月末日の4日間程度

(システム管理課)

ILL システム運用開始のお知らせ

かねてより紹介してきました ILL（Inter-library Loan：図書館間相互貸借）システムは、予定通り 4 月 1 日より運用を開始いたします。運用についての概要は以下の通りです。

1. ILL システムについて

ILL システムとは、図書館間で実施している文献複写や現物貸借に係る業務（図書館間相互貸借，Inter-library Loan）のうち，所在調査及び通信・連絡に係る部分をシステム化するものであり，文献そのものを電子的に蓄積・送信するシステムとは異なります。また，各図書館固有の業務内容については各図書館システムで対応するものであり，この ILL システムの直接の対象ではありません。

2. 利用できる機関の範囲

ILL システムを利用できる機関は以下の通りです。

- ① 国，公，私立等の大学の図書館，図書室等
- ② 大学共同利用機関等の図書室等
- ③ 国，公，私立短期大学の図書館，図書室等
- ④ 国，公，私立高等専門学校の図書館，図書室等
- ⑤ 文部省および文化庁の施設等機関等の図書室等
- ⑥ その他，所長が適当と認める図書館，図書室等（学術雑誌総合目録協力館を含む）

3. 利用の条件

利用の条件として，相互貸借業務のうち依頼業務だけでなく，機関として受付業務を行うことが必要です。分館等で受付業務を行わない場合でも本館等が受付を代行することができます。

4. 利用時間

ILL システムが利用できる時間帯は以下の通りです。

- ・月曜日から金曜日までの午前 9 時から午後 6 時まで
（土曜日は利用できません）
- ・ただし，毎月第 4 木曜日は午前 9 時から正午まで

現在のところ110以上の機関が4月1日からの利用開始を予定しています。参加館の一覧は別の機会に本誌および「オンライン・システムニュースレター」等に掲載します。また，運用後の新規の参加館の一覧についても逐次本誌等に掲載する予定にしています。

なお，ILL システム参加館においては，新規参加館の一覧や運用上での注意事項等，最新の連絡事項が ILL システムのニュース画面に表示されますので，常に確認するようにしてください。
（専門・電子情報係）

SINET の概要および加入手続き

はじめに

学術情報センターでは、インターネット・バックボーン（SINET）の運用開始に伴って、学術情報ネットワークにおいて、パケット交換網と SINET との2つのネットワークが運用されることになりました。このことに伴い、学術情報ネットワークへの加入時の接続形態は以下のものから選択できることになりました。

- ① パケット交換網のみへの接続
- ② SINET にパケット交換網を経由して接続
- ③ SINET ノードへの直接接続

また、SINET の運用に伴って「学術情報ネットワークの加入に関する実施細則」が改正され SINET にも適用されることになりました。パケット交換網のみの加入手続きについては、本号の17ページを参照してください。以下に、SINET の概要及び、接続形態、諸手続きの概略について説明いたしますが、具体的な手続き方法については、「学術情報ネットワーク加入の手引第2版（平成4年4月刊）」を本センターに請求し、ご覧ください。

なお、SINET の運用計画については、センターニュース No. 18(1991.12)「インターネット・バックボーン（SINET）の運用計画について」に掲載しておりますのであわせて参照してください。

I SINET 加入の前提

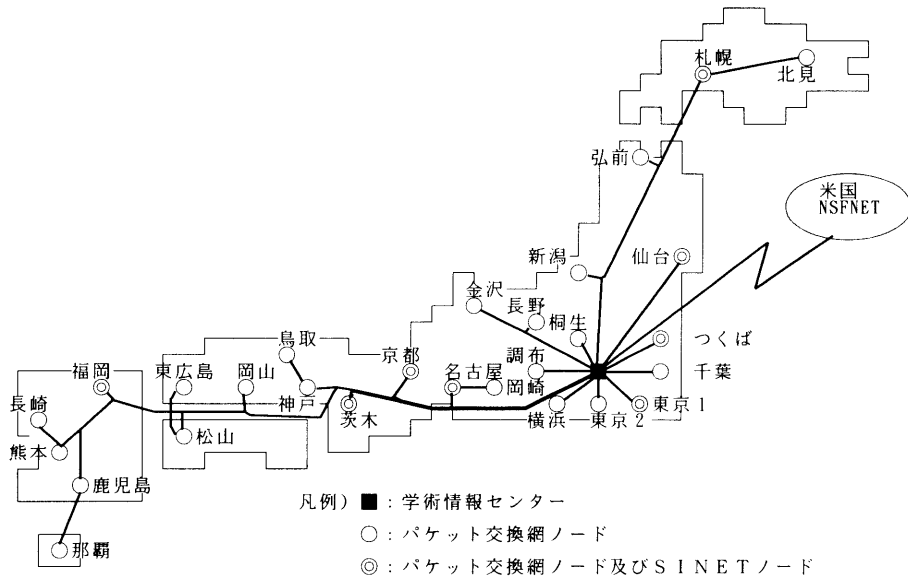
1. 概要

SINET は、学術情報ネットワークの「インターネット・バックボーン」として位置付けられます。SINET は、平成3年12月に試験運用を開始し、現在、正式運用を開始するために、SINET のノード機関の LAN の接続を順次実施しております。

SINET は学術情報センターと LAN 間接続（プロトコル：TCP/IP）のトラフィックが集中する8つのノード間（北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学）を結ぶ専用の高速幹線網として、学術情報センターの設備する高速デジタル回線でスター状に構成（図1「学術情報ネットワーク通信網構成概念図」参照）されております。この SINET では大学等の LAN をノードに直接または、パケット交換網を介して接続することにより、大学間の LAN 間接続を可能とします。また、外部ネットワークや海外ネットワークとの相互接続するための運用試験も行っております。

なお、SINET への加入は、機関単位での加入を原則としておりますので、機関内のとりまとめを十分に行ってから加入申請を行ってください。

図1 学術情報ネットワーク通信網構成概念図



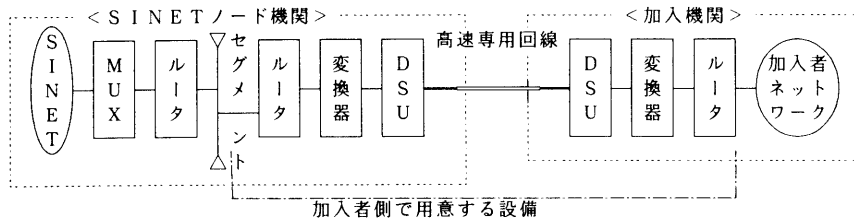
2 SINET の接続形態

SINET への接続には、SINET ノード機関にある SINET 接続用セグメントに直接接続する方法及びパケット交換網 (X.25) (最寄りのノード) に接続する方法の 2 通りの方法があります。

具体的な例を次に示します。

(1) 直接接続

SINET のノードに用意されている接続用セグメントのトランシーバに、加入機関が用意したルータを接続する形態です。加入機関から専用回線を介して接続する場合は、SINET ノード及び加入機関側に合計 2 台のルータが必要となり、さらに、回線終端装置 (DSU (通信業者が設置)) やインターフェイス変換器等の通信設備が必要となります。

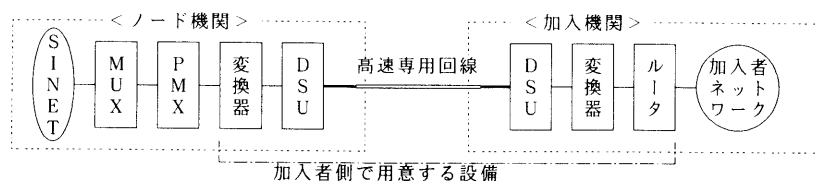


(2) パケット交換網 (X.25) 接続

パケット交換網ノード（全国28カ所）のパケット多重化装置を介して、加入機関に設置するルータに接続する形態です。この場合は、加入機関側に1台のルータが必要となり、さらに、回線終端装置（DSU 通信業者が設置）やインターフェイス変換器等の通信設備が必要となります。

なお、パケット多重化装置側の受入可能な通信速度は、64kbps までです。

《高速専用回線でノードのパケット通信網に接続する例》



- 例)
- ルータ：経路制御装置
 - DSU：回線終端装置
 - 変換器：インターフェイス変換器
 - PMX：パケット多重化装置
 - MUX：マルチメディア多重化装置
 - ====：専用回線
 - ：構内回線

3 SINET の機能等

(1) 機能

- ① TCP/IP による加入ネットワーク（学内 LAN 等）との相互の通信を可能とします。
- ② TCP/IP による加入ネットワークと外部ネットワーク（国内の他のネットワーク等）との相互の通信を可能とします。

(2) 注意事項

SINET に加入することにより、接続計算機間で仮想端末機能、ファイル転送機能等を利用することが可能となりますが、利用する計算機の利用資格等は、それぞれの運用機関等から事前に得ておく必要があります。

4 その他

(1) SINET 運用の停止

ネットワーク機器の増強、定期保守等で年4回（6月、8月、12月、3月）程度運用が停止しますが運用の停止は極力最小限の時間にしよう努力いたします。運用停止日については「学術情報センターニュース」（本号の12ページを参照）での広報をする他、停止日の1ヶ月前には、加入機関の責任者宛に直接連絡します。

また、SINET の停止等に関しては、インターネットの慣習に沿った方式での広報も検討していく予定です。このことについては、実現次第、センターニュース等でお知らせします。

(2) 障害処理

SINET の利用において、相手の計算機等と接続ができなくなる等の障害が発生し

た場合には、利用している計算機を含む加入者側の設備について確認した後、本センターネットワーク係まで連絡してください。ネットワーク係で障害の切り分け及び対策を講じます。

II 加入手続き

1 加入の手続き

SINET の加入手続きは、「学術情報ネットワークの加入に関する暫定措置を定める規則」及び「学術情報ネットワークの加入に関する実施細則」（平成4年3月10日改正）に従って行っていただきます。基本的にはパケット交換網での手続きに準じています。なお、加入資格は、従来のパケット交換網の場合と同一です。加入申請書等については、「学術情報ネットワーク加入の手引第2版」を参照して下さい。加入処理の流れについては、図2「SINET への加入処理の流れ」を参照してください。

2 加入内容の変更手続き

既にパケット交換網で加入している機関が、SINET へ加入変更する場合、「学術情報ネットワーク加入の手引第2版」を参照して「学術情報ネットワーク（加入承認事項）変更申請書」を学術情報センター長宛に提出していただくことになります。

3 問い合わせ相談

SINET への加入に関する問い合わせ相談は、下記で受け付けております。

学術情報センター 事業部 システム管理課 ネットワーク係
 〒 112 東京都文京区大塚3-29-1
 ☎ 03-3942-6947~8
 FAX 03-3942-9398
 E-mail Z00654@sinet.ad.jp
 ipnoc@sinet.ad.jp

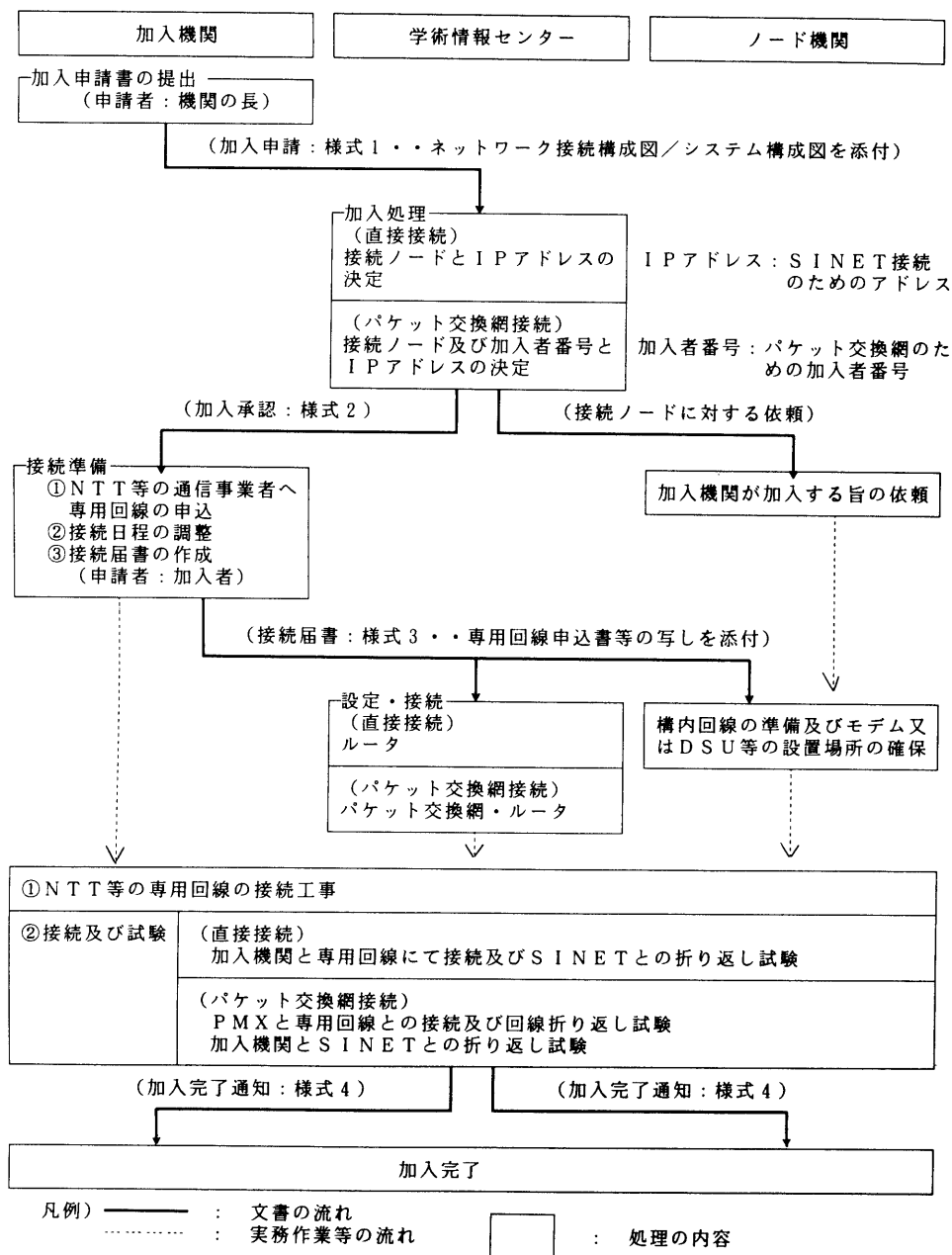
学術情報ネットワーク関連規則の改正のお知らせ

SINET の運用に伴い「学術情報ネットワークの加入に関する実施細則」が改正されました。従来のパケット交換網への加入手続きについては、申請様式等が変更されましたが、基本的な手続きには変更ありません。改正の要旨は以下のとおりです。

- (1) SINET の運用に伴って、インターネット・バックボーン及びパケット交換網への2つの加入に対応したこと
- (2) 接続事項の変更に際し、接続変更届が新たに設けられたこと

(ネットワーク係)

図2 SINET への加入処理の流れ



『家政学文献索引データベース』のサービス開始

我が国の家政学分野の雑誌論文等の索引を収録した『家政学文献索引データベース』のサービスを平成4年4月から開始します。

本データベースは、「学術情報センターにおける大学等の研究者等提供データベース受入事業」により受け入れたものであり、同事業におけるサービス開始データベース第1号となるものです。

本データベースの概要は以下のとおりです。

1. 『家政学文献索引データベース』データベースの概要

(1) 収録対象

① 収録対象雑誌

我が国における主要な家政学関係の学術雑誌300誌を収録しています。

② 収録範囲、収録件数

サービス開始当初は、1979年以降2万件ですが、順次遡及していく予定です。

また、年間増加件数は、約3,000件です。

(2) 収録データ項目

標題、著者名、掲載雑誌名、巻号、ページ、分類等を収録しています。

(3) その他

本データベースの内容は、(社)日本家政学会発行の「家政学文献集」に対応しています。

2. 利用方法

データベース呼び出しコマンドは「KASEI」です。その他、データベースの内容・利用方法等の詳細については、サービス開始時に発行予定の「NACSIS-IR データベースシート (家政学文献索引データベース)」を御覧下さい。

3. 利用料金

データベースを呼び出す都度 30円/回

利用に係る経費は、各データベースの利用額の月ごとの合計額に百分の三を乗じて得た額を加算した額となります。

(データベース課)

『雑誌記事索引データベース』及び『国会図書館 科学技術欧文会議録データベース』のサービス開始

学術情報センターでは、先にセンターニュース17号でお知らせしましたとおり、国立国会図書館が作成している『雑誌記事索引データベース』及び『国会図書館科学技術欧文会議録データベース』のNACSIS-IRによるサービスを平成4年1月31日から開始しました。両データベースの概要は以下のとおりです。

1. 『雑誌記事索引データベース』

(1) 収録対象

我が国で刊行される、人文・社会科学分野、自然科学分野の学術雑誌約3,300種に掲載される論文の標題、著者名、掲載雑誌名、巻号、ページ等を収録しています。

(2) 収録範囲、収録件数

1984年以降のデータを収録しており、現在のデータ件数は約81万件。冊子体の『人文・社会編』と『科学技術編』との両方を収録しています。データは3ヶ月毎に更新の予定です。年間の増加件数は約11万件。

(3) 利用方法

データベース呼び出しコマンド名は「NDLJPI」または「ZASSAKU」です。

(4) 利用料金

接続料・・・50円/分 及び ヒット料・・・13円/件

(なお、利用料金は合計額に3%を加算した額になります。)

2. 『国会図書館科学技術欧文会議録データベース』

(1) 収録対象

1985年から国立国会図書館において受入、整理完了した欧文の科学技術関係会議録のタイトル、会議名、開催地、出版社、請求番号、分類記号等を収録しています。

(2) 収録範囲、収録件数

1985年以降のデータを収録しており、現在のデータは27,815件。データは毎月更新の予定です。年間の増加件数は約5,000件。

(3) 利用方法

データベース呼び出しコマンド名は「NDLPROC」です。

(4) 利用料金

接続料・・・30円/回 (なお、利用料金は合計額に3%を加算した額になります。)

3. 検索補助資料の入手

内容及び利用方法等をお知りになりたい方は、「NACSIS-IRデータベースシート(雑誌記事索引データベース)」「同(国会図書館科学技術欧文会議録データベース)」をご覧ください。データベースシートを入手されたい方は共同利用係(03-3942-6933)へ、お問い合わせください。
(データベース課)

データベースシートの発行

センターニュース17号に掲載されたデータベースシートの他に、現在次のシートが発行されていますのでご案内します。

1. 雑誌記事索引データベースシート
2. 国会図書館科学欧文会議録データベースシート
3. 維新資料綱要データベースシート
4. 民間助成研究成果概要データベース
5. 家政学文献索引データベース

ご希望の方は、①送付先の郵便番号、住所、氏名、②利用者番号、③希望するデータベースシート名を明記の上、FAX (03-3814-4931 共同利用係宛) で申し込みください。

なお、17号の申込書を利用する方は備考欄に必要なデータベースシート名を記入し申し込みください。
(共同利用係)

学術雑誌総合目録欧文編（新版）の調査概要

学術雑誌総合目録和文編が刊行されたことに伴い、当センターでは予定どおり、平成4年度から3年計画で欧文編（新版）作成事業を実施いたします。

欧文編は1988年版刊行以降、目録システム接続館によるオンラインでのデータの登録・修正が行われてきましたが、前の版の調査時点から既に6年が経過しておりますので、今回これらのデータを基礎として改めて全国調査を行います。

今回の調査の概要は以下のとおりです。

1. 調査対象資料
各参加機関が所蔵する欧文の逐次刊行物を対象とします。
2. 調査時期
調査は平成4年11月からの5ヶ月間を予定しています。
3. 調査方式
調査の方式として、次の4方式を用意します。
 - ①オンラインによる報告（書誌・所蔵）
 - ②データシートによる報告（書誌・所蔵・変遷）
 - ③磁気テープによる報告（所蔵のみ）
 - ④CD-ROM 利用システムによる報告（書誌・所蔵）

なお、④は今回新規に開発した調査方式です。
(雑誌目録情報係)

学術雑誌総合目録和文編1991年版の刊行

学術雑誌総合目録和文編は、平成元年11月の全国調査以来、2年5ヶ月に及ぶ調査・編集作業を経て、この4月に上梓される運びとなりました。刊行される冊子体は全7分冊で構成され、総ページ数は7,500ページに達し、これまでの学術雑誌総合目録の中で最も大きなものとなりました。この事業が完成しましたのは、ひとえにご多忙の中を全国調査・確認調査等にご協力頂きました各図書館のご尽力の賜物です。あらためて御礼申し上げます。以下に今回の冊子体の特徴をいくつか述べることにします。

1. 所蔵データ収録機関

収録機関数は前回の欧文編に比べ、約1割増加し、702機関となりました。

その内訳は、国公立大学図書館が計482機関、各省庁所轄研究機関、地方公共団体、公社・法人・学協会等が計220機関です。

2. 収録範囲及び収録誌数等

収録範囲は、原則として国内で所蔵する和文の逐次刊行物です。今回の調査においては、目録所在情報システムに接続してオンラインでデータの登録・修正等を行う方式が新たに採用されました。冊子体にはこの方式によって登録していただいたデータも数多く収録されています。収録誌数とその所蔵データの件数は次の通りです。

収録誌数	68,999件
所蔵データ件数	1,408,804件

3. 記入の種類及び内容

記入の種類は、基本記入（誌名、出版者や創刊年等の書誌データと、その所蔵館名や所蔵巻次・年次を表示した所蔵データとで構成される基本的な記入）、異誌名参照記入及び団体名等参照記入の3種類です。各記入の件数は次の通りです。

基本記入	68,999
異誌名参照	22,503
団体名等参照	39,510

4. 配列

配列は、上記の各記入を混配し、各記入の見出しのヨミの五十音順としてあります。見出しは字順配列であり、語によって区切ってはいません。また、見出しのヨミが同じ記入の場合、基本記入、異誌名参照記入、団体名参照記入の順としています。

なお、今回の「学術雑誌総合目録和文編1991年版」は、丸善株式会社から出版されます。

(雑誌目録情報係)

目録所在情報サービス利用者の範囲拡大と利用説明会の開催

—— 短大・高専も CAT・ILL システムの参加機関に ——

目録所在情報サービスのうち、図書の目録システム（NACSIS-CAT）は、平成4年2月末現在186大学図書館等の参加を得て、形成された総合目録データベースは、書誌177万件（和図書59万件、洋図書118万件）、所蔵648万件（和図書390万件、洋図書258万件）に達し、ようやく安定的なサービスとなってきたところです。

この事業をさらに発展させるため、NCASIS-CATの参加機関の範囲を、短期大学及び高等専門学校の図書館、図書室等に拡大することになりました。従来から参加希望がよせられていたのですが、システムの拡大は難しいということでお断りしてきました。最近になってサービスとして安定化し、このサービスを利用することによって極めて効率的に目録作業が行えるようになったことと、平成4年1月にシステム更新を実施したことにより短期大学、高等専門学校の全図書館、図書室に参加いただいてもシステムのカバーできるという見通しがついたこと等により、拡大する運びとなりました。実施時期は、平成4年4月1日の予定です。

あわせて、平成4年4月からILLシステムのサービスを開始いたしますが、この参加機関の範囲の中に、短期大学及び高等専門学校の図書館、図書室等が含まれます。

短期大学及び高等専門学校へは、学術情報センターニュース及びニュースレター等で広報するほか、文書でもご案内する予定です。

また、短期大学及び高等専門学校を中心とした未接続図書館に目録所在情報サービスの概要や接続方法を理解していただくため、下記の日程で「目録所在情報サービス利用説明会」を開催しますのでご案内いたします。

- | | | | |
|------------------------------------|-----------|-----|-----------|
| (1) おもな内容 | | | |
| ①学術情報センターの概要、②目録所在情報サービスの概要と利用方法 | | | |
| ③学術情報センターとの接続方法、④利用申請方法、⑤質疑応答、個別相談 | | | |
| (2) 日付（時間：各回とも 14:00～16:30） | | | |
| 第1回 | 5月22日（金） | 第2回 | 6月19日（金） |
| 第3回 | 7月17日（金） | 第4回 | 9月18日（金） |
| 第5回 | 10月23日（金） | 第6回 | 11月20日（金） |
| 第7回 | 12月18日（金） | 第8回 | 1月22日（金） |
| 第9回 | 2月19日（金） | | |

今回の募集は第1回から第3回とします（第4回以降の募集は次号以降でご案内いたします）。各回先着10機関とさせていただきますので、希望日を電話（03-3942-6933共同利用係）で予約（確認）のうえ、「目録所在情報サービス利用説明会参加」と明記し①機関名、②機関の住所、③参加者の職名及び氏名（3名以内）、④連絡先の電話番号、⑤予約日を記入しFAX（03-3942-4931共同利用係宛）にて申込みください。

（図書目録情報係・共同利用係）

平成3年度 NACSIS-IR 利用端末調査（報告）

NACSIS-IR の利用環境等を把握し、今後のシステム改善等の参考とするため、平成3年10月に標記調査を実施しましたので報告します。皆様の御協力に感謝いたします。

1. 実施概要

- (1) 調査票送付数 1,495
- (2) 回収調査票数 959
- (3) 調査方法 往復葉書によるアンケート
- (4) 調査項目 ① 使用端末の種類
 ② 通信ソフトウェア
 ③ 漢字使用の可否
 ④ NACSIS-IR との接続方式
 ⑤ 通信速度

2. 集計結果

質問1 使用中の端末機は

端 末 機 器 名	件 数	割 合
NEC PC-9801シリーズ	703	64.4 %
日立 2020	65	6.0 %
富士通 FMRシリーズ	61	5.6 %
MACINTOSH	48	4.4 %
FACOM 9450シリーズ	46	4.2 %
IBM PS/55シリーズ	43	3.9 %
EPSON PCシリーズ	33	3.0 %
SUN WORKSTATION	22	2.0 %
NEC N5200 シリーズ	22	2.0 %
TOSHIBA J3100	18	1.6 %
その他	31	2.8 %
合 計	1,092	

質問2 使用中の通信ソフトウェアは

通信ソフトウェア名	件数	割合
まいとーく	189	18.9 %
P-COM	91	9.1 %
CCT98	71	7.1 %
ETERM	56	5.6 %
G-POT	29	2.9 %
WTERM	28	2.8 %
ESTERM	26	2.6 %
自作通信ソフト	24	2.4 %
各大学作成版ソフト	22	2.2 %
CTERM	22	2.2 %
Ninja Term	19	1.9 %
egtalk	18	1.8 %
ETOS52Gエミュレータ	18	1.8 %
VT100エミュレータ	16	1.6 %
IBM漢字情報検索システム	16	1.6 %
その他(102種類)	357	35.6 %
合計	1,002	

質問3 漢字の使用は

漢字の使用	件数	割合
使用できる	980	94.0 %
JIS78	125	12.6 %
JIS83	501	51.2 %
記入なし	354	36.2 %
使用できない	62	6.0 %
合計	1,042	

質問5 使用中の通信速度は

通信速度	件数	割合
300 BPS	9	1.2 %
1,200 BPS	292	38.6 %
2,400 BPS	359	47.5 %
4,800 BPS	6	0.8 %
9,600 BPS	90	11.9 %
合計	756	

質問4 NACSIS-IR への接続方法は

接続方法	件数	割合
電話回線経由	546	47.2 %
直接	279	51.1 %
DDX-TP	71	13.0 %
アクセスポイント	110	20.1 %
記入なし	86	15.8 %
計算機経由	610	52.8 %
計算機直結	137	22.5 %
LAN経由	200	32.8 %
電話経由	174	28.5 %
記入なし	99	16.2 %
合計	1,156	

(データベース課)

平成3年度 NACSIS-IR 利用者懇談会（報告）

NACSIS-IR をより使い易く、充実したものとするための標記懇談会を平成3年10月30日と11月6日の2回にわたって実施しました。参加者の皆様にはお忙しいところをおいで頂き、貴重な御意見をありがとうございました。早速、可能なところから順次、改善していきたいと考えております。

懇談会の実施状況は、以下のとおりです。

1. 実施概要

- (1) 関東地区 10月30日 学術情報センター 参加者 19名
- (2) 関西地区 11月6日 大阪大学生命科学図書館 参加者 23名

2. 主な意見・要望

懇談会では、NACSIS-CATを含め広範な意見・要望が出されましたが、NACSIS-IRに関する主な意見・要望は、以下のとおりです。

(1) 検索システムについて

- ① 使い易いコマンド体系の導入
- ② 出力モードの統一、任意の項目の出力
- ③ オンラインマニュアル、オンライン HELP 機能
- ④ 近接演算等の英文検索機能の充実
- ⑤ データベース一覧、更新状況表示コマンドの作成
- ⑥ 複数データベースの一括検索
- ⑦ パッチ検索、SDI サービス
- ⑧ オフラインプリントサービス
- ⑨ その他、個別のデータベース検索システムに対する意見・要望がありました。

(2) データベースについて

- ① 雑誌記事索引の導入
(平成4年1月31日サービス開始しました。)
- ② 各国 MARC の導入
- ③ 各種データベースの遡及

(3) 利用、運用について

- ① 使用料金の低廉化
- ② サービス時間の延長
(平成4年2月1日から、平日は午前2時まで延長しました。)
- ③ 利用者講習会の充実
- ④ 利用マニュアルの充実
- ⑤ 利用資格の拡大
- ⑥ ISDN を通じての利用

(データベース課)

学術情報ネットワーク（パケット交換網）加入機関

学術情報ネットワークの平成3年度新規加入機関は以下の通りです。

（平成4年3月末現在加入順）

加 入 機 関 名			加 入 機 関 名		
1	札幌学院大学	3. 4. 1	20	高知大学	3. 9. 26
2	奈良教育大学	3. 4. 11	21	日本医科大学	3. 9. 26
3	梅花女子大学・短期大学	3. 4. 16	22	成蹊大学	3. 10. 1
4	光華女子短期大学	3. 4. 19	23	西東京科学大学	3. 10. 1
5	北星学園大学	3. 4. 24	24	福山大学	3. 10. 1
6	大阪医科大学	3. 5. 22	25	和洋女子大学	3. 10. 2
7	姫路工業大学	3. 5. 24	26	金沢経済大学	3. 10. 16
8	甲南大学	3. 5. 24	27	都留文科大学	3. 10. 22
9	京都造形芸術大学	3. 6. 3	28	愛知医科大学	3. 11. 1
10	聖徳大学	3. 6. 5	29	駒澤大学	3. 11. 21
11	名古屋商科大学	3. 6. 10	30	流通経済大学	3. 12. 3
12	新潟薬科大学	3. 6. 17	31	徳島大学	3. 12. 25
13	武蔵大学	3. 6. 27	32	立正大学学園	3. 12. 26
14	石川県農業短期大学	3. 7. 4	33	帯広畜産大学	4. 2. 12
15	滋賀医科大学	3. 7. 8	34	フェリス女学院大学	4. 3. 2
16	姫路獨協大学	3. 8. 6	35	神戸学院大学	4. 3. 4
17	東京慈恵会医科大学	3. 8. 29	36	鈴鹿医療科学技術大学	4. 3. 11
18	広島修道大学	3. 9. 3	37	拓殖大学	4. 3. 16
19	広島工業大学	3. 9. 5	38	東京商船大学	4. 3. 19

この結果、加入機関は、国立大学77、公立大学8、放送大学1、私立大学77、短期大学3、共同利用機関14、合計180となりました。

注) 昭和62年度－平成2年度の加入機関については、「センターニュース16号」
P. 26～27に掲載
(ネットワーク係)

学術情報ネットワーク・パケット交換網の ノード設置計画完了

学術情報センターでは、学術情報システムの基盤整備計画の一環として、昭和61年度から学術情報ネットワーク・パケット交換網の構築を行ってきました。

今年度はその第6年度目として、新たに横浜（横浜国立大学）に通信拠点（ノード）を設置し、平成4年1月から運用を開始いたしました。これにより、ノードは全国28ヵ所となり、これをもって当初整備計画が完了しました。

今後は、近隣大学等機関の接続にかかるノード側通信設備の増強、高速デジタル回線の増強ならびにアクセス・ポイント（電話網からの接続ポイント）の整備等を実施していく予定です。

なお、この基盤網整備については、各ノード機関の御理解と御協力により進められています。この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

（全国的なノードの分布は、「センターニュース16号」P.25参照）

NACSIS-BBS 掲示板一覧

電子メールシステムの中で提供している「電子掲示板（Bulletin Board System）、BBS」サービスでは、各掲示板（ボード）が階層構造を成しています。

CUGの利用・参加については、各ボードに表示されている特定利用掲示板管理者に照会してください。

また、目的のボードに一気に移動する場合には、下記の機能を利用してください。

例：システム選択レベル（SYSTEM ?が表示している時）から掲示板FREEの下BITNETに一気に移動する場合の例

下線部が入力です。

SYSTEM ?BBS FREE. BITNETあるいは、BBS に入ったあとでは、

SYSTEM ?G FREE. BITNETです。

NACSIS-BBS 一覧表

1992年2月13日 現在

掲示板名称 (階層構造)	内 容	下層の 掲示板数	メッセー ジ数
BBS			
— NACSIS	学術情報センター関連情報	1	9
— GUIDE	サービス利用案内	0	7
— HAJIME	掲示板の練習用 (使い方の質問も受付ます)	0	92
— QA	質問受付、回答 (自由利用)	0	223
— FREE	自由利用掲示板	1	86
└ BITNET	BITNET相談室	0	67
— CUG	特定グループ利用者掲示板	13	0
└ IPCC	国立大学情報処理センター協議会の電子会議	1	1
└ LINK	近畿北部地区国立大学図書館実務者会議	3	0
└ ELECTLE	東京大学インテリゲン・ライブラリ・コミュニティ	4	2
└ TEAB	日本行動分析学会	4	1
└ PASTON	パストンレターズ研究会	3	1
└ JADP	日本発達心理学会フォーラム	0	0
└ MAKTABA	京都大学図書館系職員のシステム関係事務連絡用	4	0
└ DDJ	外国語関連フォーラム	9	1
└ EBBCCJ	錯体化学フォーラム	0	0
└ BBLUSR	BIBLIONユーザ広場	0	7
└ ASIA	東洋学関連フォーラム	4	2
└ CATLEC	地域目録講習会応援団	3	4
└ OPALG	関数解析研究会	4	19
— CONF	学術関係会議等開催情報 (日本学会会議提供)	8	7
└ A	学術研究集会等開催予定一覧 平成2年度	8	0
└ B	学術関係国際会議一覧 1990年度 第2集 (国内開催)	0	135
└ C	学術関係国際会議一覧 1990年度 第2集 (国外開催)	0	385
└ D	学術関係国際会議一覧 1991年度 第1集 (国内開催)	0	86
└ E	学術関係国際会議一覧 1991年度 第1集 (国外開催)	0	273
└ F	学術研究集会等開催予定一覧 平成3年度	8	0
└ 0	主催団体名 索引	0	1126
└ 1	第1部 文学、哲学、教育学、心理学、社会学、史学	301	0
└ 2	第2部 法律学、政治学	49	0
└ 3	第3部 経済学、商学、経営学	81	0
└ 4	第4部 理学	128	0
└ 5	第5部 工学	136	0
└ 6	第6部 農学	130	0
└ 7	第7部 医学、歯学、薬学	301	0
└ G	学術関係国際会議一覧 1991年度 第2集 (国内開催)	0	97
└ H	学術関係国際会議一覧 1991年度 第2集 (国外開催)	0	95
— LIB	図書館職員掲示板	4	1
└ CAT	(ネコではなくて) カタログラーの部屋	0	201
└ INF	情報コーナー	0	15
└ TEA	お元気ですか (談話室)	0	305
└ REF	教えてください (参考質問) コーナー	0	42

(システム管理課)

国際電子メール

(1) CSNET の INTERNET への吸収

平成元年4月からCSNETとの電子メール交換サービスを提供してきましたが、CSNETのサービスが平成3年9月に打ち切れ、INTERNETに吸収されました。このため、NACSIS-MAILとCSNETとの間で実施していた電子メール交換は、INTERNETとの間で継続してサービスしています。

(2) BITNET との電子メール交換の経路変更

BITNETとの電子メール交換は、BITNET-JP（日本BITNET協会）との協調のもとに行うことにしました。このことにより、平成4年2月からBITNETとの電子メール交換は、今まで米国のジョージワシントン大学と直接接続していた方式を取り止め、国内でセンターの役割を果たしている東京理科大学を経由して送受信することになりました。

（システム管理係）

目録システム接続ニュース

前号以降、新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は、以下のとおりです。

（平成4年2月現在）

No.	機 関 名	接 続 日	No.	機 関 名	接 続 日
183	四 国 女 子 大 学	3.12.9	185	石 巻 専 修 大 学	4.1.27
184	駒 澤 大 学	3.12.11	186	光 華 女 子 大 学	4.1.27

この結果、参加機関数は、国立大学95、公立大学9、私立大学73、共同利用機関7、その他2、合計186となりました。

（共同利用係）

NACSIS-IR データベース収納状況

平成 4 年 2 月 1 5 日現在

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
1	Life Sciences Collection	1,005,417	1982年1月～
2	MathSci	760,090	1973年1月～
3	COMPENDEX PLUS	2,323,014	1976年1月～
4	Harvard Business Review	2,522	1927年1月～
5	ISTP & B	1,742,493	1982年1月～
6	EMBASE	2,260,240	1984年4月～
7	SciSearch	3,248,737	1987年4月～
8	Social SciSearch	592,565	1987年4月～
9	A & H Search	539,629	1987年4月～
10	科学研究費補助金 研究成果概要データベース	57,146	昭和60年度～
11	学位論文索引データベース	54,579	昭和59年度～
12	学会発表データベース第一系 (電気・情報・制御関連)	57,849	昭和62年度～
13	学会発表データベース第二系 (化学関連)	13,721	昭和63年度～
14	学会発表データベース第三系 (建築・土木・造園関連)	12,225	平成2年度～
15	学会発表データベース第四系 (生物・農学関連)	731	平成2年度～
16	学会発表データベース第七系 (医学関連)	672	平成2年度～
17	学術論文データベース第一系(全文) (電子関連)	456 1,976	平成元年度～
18	学術論文データベース第二系 (化学関連)	5,917	昭和58年1月～
19	研究者ディレクトリ	130,109	昭和63年5月現在
20	現行法令データベース	3,600	平成3年9月末現在
21	海外研究プロジェクト データベース	80,972	平成4年1月末現在
22	経済学文献索引データベース	63,011	平成2年度～
23	維新史料網データベース	18,285	
24	雑誌記事索引データベース	805,620	1969年1月～
25	JPMARC	1,064,431	1969年1月～
26	LCMARC(Books)	3,177,833	1968年1月～
27	LCMARC(Serials)	523,442	1973年1月～
28	目録所在情報データベース (和図書)	582,936 3,823,948	
29	目録所在情報データベース (洋図書)	1,172,658 2,551,230	
30	目録所在情報データベース (和雑誌)	65,068 1,434,459	
31	目録所在情報データベース (洋雑誌)	109,280 885,522	
32	アメリカン・センタースタッフ 総合目録データベース	6,320	平成元年12月末現在
33	科学技術関係欧文会議録 データベース	27,815	昭和60年4月～
34	データベース・ディレクトリ	1,170	平成2年4月現在

(注) No.28～31のデータベースの上段は書誌件数、下段は所蔵件数。

(システム業務係)

NACSIS-CAT データベース構築状況

平成4年2月13日現在

データベース名称			収納件数	備考(収録期間等)
総合目録データベース	和 図 書	書 誌	584,072	
		所 蔵	3,832,465	
	洋 図 書	書 誌	765,241	
		書 誌 (週 及)	408,682	
		所 蔵	2,555,873	
	和 雑 誌	書 誌	72,500	
		所 蔵	1,493,671	
	洋 雑 誌	書 誌	111,099	
		所 蔵	903,727	
	著 者 名 典 拠		532,617	
	統 一 書 名 典 拠		1,460	
参照ファイル	LC/MARC	洋 図 書 書 誌	3,813,734	1968年1月～1992年2月
		洋 雑 誌 書 誌	523,442	1973年1月～1992年2月
		非 文 字 書 誌	150,129	1973年1月～1991年3月
		洋書著者名典拠	2,384,937	1977年1月～1992年2月
		洋書統一書名典拠	13,618	1977年1月～1992年2月
	JP/MARC	和 図 書 書 誌	1,068,434	1969年1月～1992年2月
		和 雑 誌 書 誌	79,848	1968年8月～1991年6月
		和書著者名典拠	26,288	
	UK/MARC	洋 図 書 書 誌	1,218,332	1950年1月～1992年2月
	TRC/MARC	和 図 書 書 誌	264,093	1985年4月～1992年2月
	GPO/MARC	洋 図 書 書 誌	281,068	1976年1月～1990年12月

(システム業務係)

平成3年度学術情報センター・シンポジウム(大阪会場)開催

平成3年度学術情報センター・シンポジウムは、昨年11月14日の東京会場開催に続き、去る2月28日(金)「NACSIS事業の新たな展開へ向けて」をテーマに、大阪建設交流館グリーンホールにおいて開催され、141名の参加がありました。猪瀬博所長に代わり大野公男学術情報センター副所長の挨拶に引続き、坂上光明学術情報センター目録情報課長による「資源共有とILLシステム」、永田治樹北海道大学研究協力課長による「ILLシステムへの期待と要望」、大野公男学術情報センター副所長、井上如学術情報センター教授による「NACSISの国際展開：現状と展望」、濱口恵俊国際日本文化研究センター情報管理施設長による「高度情報社会におけるヒューマン・ファクターの問題」の各々の講演の後、パネラー：宮川公男一橋大学附属図書館長、林英輔山梨大学情報処理センター長、松浦正筑波大学図書館部長、根岸正光学術情報センター教授、コーディネーター：井上如学術情報センター教授によるパネル討論「学術情報センターに期待するもの」がありました。

平成3年度学術情報センター・シンポジウム講演要旨

資源共有とILLシステム

学術情報センター目録情報課長

坂 上 光 明

学術情報センターでは、本年4月1日からのILLシステムのサービス開始を目前に控えて、現在、最終的な準備作業を行っている。

ILLシステムは、図書館間相互貸借に関わる業務のうち、従来の申込書のやり取りに相当する部分を電子的に処理しようとするものであり、書誌・所蔵の調査から、依頼、受付、発送(料金)通知、謝絶、照会、督促等の通信・連絡機能を備えているが、文献そのもののやり取りを電子的に行うものではない。その目的は、研究者への文献提供サービスをより迅速化・効率化することである。

従来の郵送等による依頼・受付の方法と比べて、ILLシステムは、①各種の業務処理ステップを単一のシステムに統合することによる効率化・標準化、②最新の書誌・所在情報(NACSIS-CAT)に基づく依頼先の選定、③書誌データの自動転記、標準値の自動設定等による依頼レコード作成の省力化・正確化、④依頼先の複数指定と謝絶の場合の自動転送機能、⑤参加機関の利用条件の参照と自館データの更新機能、⑥相手館における現在の処理状況の確認機能のような多くの特長を持っている。なお、近い将来の追加機能として、NACSIS-IRで必要な文献を検索した場合、その場でILLの申込みができる機能の開発・運用を予定している。

ILLシステムは、「学術情報資源の共有」という学術情報システムの理念をもっとも具体的な形で実現するとともに、資料の収集・保存を含めた大学図書館の相互協力ネットワークを今後さらに発展させていく契機となることが期待される。(東京・大阪会場)

アメリカの大学図書館間相互協力：特に ILL を中心にして

ノーザン・イリノイ大学日本研究所主任教授

セオドア F. ウエルチ

ISL（イリノイ州立大学）は、イリノイ州のネットワークである ILLINET（イリネット）を経営するとともに、州のデリバリーサービス（ILDS）を行っている。

また、ILCSO（イルクソ）が経営する図書館コンピュータシステムである LCS は RLIN のような integrated online system であり、相互貸借はこのシステムを使って行われている。加入団体は35団体で、ほとんどが大学図書館である。

ノーザン・イリノイ大学もこの LCS に加入し、NICLS（ニクルズ）というローカルシステムと CHEN I. F.（チェン・インタフェース）により、LCS のレコードや他の加入大学の蔵書にアクセスしている。CHEN I. F. は所蔵や貸出レコードの確認及びリザーブのほかに、貸出の負担が大規模館に集中しないような機能も有している。

ILL による貸出期間は1カ月～6週間（1回5～6冊）であるが、ILDS によって依頼して2～3日で図書館に届けられる。

イリノイ州には ILL の運用に直接間接に関わりを持つ多くの組織や仕組みがあり、極めて活発な活動が行われており、ILL の件数は年間70万件にのぼっている。（文責：編集部）（東京会場）

NACSIS の国際展開：現状と展望

学術情報センター副所長

大 野 公 男

学術情報センター教授

井 上 如

標記国際展開の可能性を探るために、NACSIS 内に設置したワーキング・グループ（主査：大野）の検討結果（下記参考文献を参照のこと）を報告した。(1)国内での蓄積を踏まえた NACSIS-CAT の地域別国際展開、すなわち欧州（英国と大陸と）、北米、韓国につき、それぞれ事情の違いに応じた対応、(2)NACSIS-IR の本格的な国際展開に際して必要となる課金方法と料金徴収方法の問題、(3)学術情報ネットワークの国際展開の動向と展望等につき述べた。特に、国際展開の可能性は、相手国における協力機関の存在がいかに重要であるかを、英国の大学図書館（英国側代表者 BL 研究開発部長 Mr. Brian Perry）とのパイロット・プロジェクトを例にとりて強調した（大野）。

また、国際学術調査の一環として実施した「日本情報ニーズと日本語コレクション調査」では、海外の日本語コレクションの多様性、特に米国における急激な変化、今後の調査課題、NACSIS の事業展開への示唆等について述べた（井上）。（東京・大阪会場）

〈参考文献〉

大野公男 “NACSIS の国際サービスの発展に向けて” 学術情報センター・ニュース
17 : 4-6 (1991.9)

OHNO, Kimio “Future possibilities of NACSIS services abroad” NACSIS Newsletter
5:4-5(1991.12)

学術情報センター “NACSIS サービスの国際展開を目指して——国際展開 WG の報告
書——” 学術情報センター紀要 4 : 369-393 (1991.12)

ILL システムへの期待と要望

図書館情報大学助教授

石 井 啓 豊

大学図書館における文献複写 ILL の統計分析から、① 依頼件数の上位21大学の内16大学はいわゆる A 又は B クラスの大学であり、大規模大学でも学内で自己充足できず、ILL に大きく依存している、② 依頼件数／教員・院生数を見ると、中小規模大学（例えば医学系、教育系単科大学）が高い。③ 受付件数／教員・院生数では、外国雑誌センターが高く、又、大学の規模に関わりなく、それぞれ高い大学があることが分かった。利用者としては、ILL には距離と時間の克服、地域格差の解消という大きな意義があるので、すべての図書館が積極的に参加することによって図書館のサービスを拡充してほしい。ILL システムの利用に伴って、各大学では、学内利用者と図書館の間の ILL コミュニケーション、ILL 資料の配送サービス、ILL 受付処理の迅速化等が具体的な次の課題であろう。

又、ILL サービスが量的にも既に大学図書館サービスの重要な柱の一つとなっていること、一方、大学図書館には、利用者に判りやすい ILL サービスを示す適切な名称が存在しないことを指摘し、サービスの拡大のためにも、この際、適切なサービス名称を工夫する必要があることを提案した。（東京会場）



挨拶する大野副所長

大阪会場に眼鏡をお忘れの方、研修係でお預かりしていますので御連絡ください

ILL システムへの期待と要望

北海道大学研究協力課長

なが た はる き
永 田 治 樹

二つのアンケート調査（永田「大学図書館の評価方法設定のためのアンケート」（A）及び日本学会議「日本の学術研究環境－研究者の意識調査」（B））の結果、次のことがわかった。

(1)教員・研究者が必要とする学術情報の入手は、研究会・シンポジウム発表、データベース検索、研究者間の FAX や E-MAIL などによる場合も増加しつつあるが、なお雑誌・図書からの比率が高い。（A）

(2)しかし必要な情報を入手するための経費は充足していないし、大学図書館の情報収集状況も要求に十分応えていないと考えられている。（B）

(3)大学図書館機能として望まれていることは、第1位は研究用の図書・雑誌の整備、第2位は図書館間相互協力サービスの充実、第3位は教育用の図書・雑誌の整備である。（A）

(4)教員・研究者は情報の枯渇感を訴えるものの、図書館への財政措置が十分でないという意見の一致はなく、十分ではないが最低限は保証されているという答えが半数近い。（A）

この結果から、図書館に求められているのはできるだけ多くの情報資源の整備・提供であり、財政を考慮すると情報資源を有効・適切に提供できる ILL システムの役割への期待は大きい。

そこで ILL システムの円滑な実施が望まれるが、(1)は図書館は所蔵しない文献についても保証するために、(図書館は収集と ILL のポリシーを連関させて考慮すべきだ)、ILL サービスの経費補助やスタッフ面での改善策、(2) ILL サービスはスピードが肝要であり、かつ情報は研究の場に必要である。そこで ILL をドキュメントデリバリーサービスとつなぐ必要があり、そのための技術的開発への取り組み、(3)現状での障害（無秩序な管理状況、会計的な規則、排他意識など）の克服、これらが当面の課題となっている。

ILL サービスは、大学図書館サービスの本質的な部分であり、このサービスの充実なくして、今後大学における情報基盤としての図書館の地位が確保されない。（大阪会場）



パネル討論

高度情報社会におけるヒューマン・ファクターの問題

国際日本文化研究センター情報管理施設長

濱 口 恵 俊

高度情報社会というのは、生産・消費過程を制御する情報処理（情報の変換・貯蔵・伝達の技術革新が著しい高度産業社会のことである。この社会では、コンピュータなど情報機器の発達・普及に伴い、デジタル化・記号化された情報が氾濫し、「こころ」を内包した「情の知らせ」としての人間の情報がうすれてくる。たとえば、直接の会話が可能なときにもパソコン通信による、といったように。マン・マシン・インターフェイスという用語が示唆するように、非線形システムとしての人間の行動と、線形（リニア）ロジックで動くコンピュータとは、本来的に適合しないのである。枝別れの論理に従う検索方法にも問題がある。機械的な操作によって容易に多量の情報が産出されてくるが、こうした過多情報（「混識」）を、不必要な部分を切り捨てて、通りのよい「通識」に転化する必要がある。また、生活における「機能性」と「必要性」とを明確に区分することが、高度情報社会によって賢明な策であろう。社会の情報化が進めば進むほど、ヒューマン・ファクターの意味が大きくなる、と考えられる。（大阪会場）

学術情報センターに期待するもの〔パネル討論〕

（パネラー）

一橋大学附属図書館長

宮 川 公 男

山梨大学情報処理センター長

林 英 輔

筑波大学図書館部長

松 浦 正

学術情報センター教授

根 岸 正 光

（コーディネーター）学術情報センター教授

井 上 如

標記の論題で、センターのシンポジウムとして初めてのパネル討論会を開いた。4人のパネルメンバーがそれぞれの立場から意見報告を行った後、フロアからまとめて意見・質問を集め、それに対して各メンバーもまとめて応える形で展開した。学術情報センターの根岸正光教授は、目録所在情報サービスに対する最近の入力量の伸び、ヒット率の正確な測定を巡る統計的分析を、一橋大学附属図書館長の宮川公男教授は、社会科学分野の利用者の立場からの学術情報システムに対する新たな認識を示し、更に遡及入力への期待を、山梨大学情報処理センター長の林英輔教授は、学術情報ネットワークと学内LANの相互の進化過程と、それを踏まえた学術情報センターへの幾つかの要望事項を、筑波大学の松浦正図書館部長は、大学図書館と学術情報センターの間に立つ立場から、両者のより緊密な関係への期待を、それぞれ述べた。在席した全ての者にとって、学術情報システムの持つ広がりを認識する良い機会となったと思われる。（東京・大阪会場）

（研修係）

平成3年度教育・研修事業報告

平成3年度の教育・研修事業は、以下の通りに行われましたので報告いたします。

1. 研修等

研修等の種類		回次	期 間	参 加 者 数	備 考
目録システム講習会 (センター開催)		①	3. 5. 13～5. 16	25人	
		②	3. 6. 24～6. 27	25人	
		③	3. 7. 22～7. 25	25人	
		④	3. 8. 5～8. 8	25人	
		⑤	3. 10. 21～10. 24	25人	
		⑥	3. 12. 2～12. 5	25人	
		追加	4. 3. 3～3. 6	28人	
目録システム講習会 (地域講習会)	共 催 大 学	北海道大学	① 3. 9. 2～9. 6 ② 3. 9. 2、10～13	9人 9人	
		東北大学	3. 7. 8～7. 12	14人	
		筑波大学	3. 6. 3～6. 7	3人	
		東京大学	① 3. 9. 13、17～20 ② 3. 9. 13、24～27	10人 10人	
		東京工業大学	3. 5. 27～5. 31	10人	
		新潟大学	3. 7. 1～7. 5	5人	
		信州大学	3. 8. 26～8. 30	11人	
		金沢大学	3. 6. 17～6. 21	10人	開催協力館：富山医科 薬科大学
		京都大学	3. 9. 30～10. 4	8人	
		立命館大学	3. 11. 11～11. 15	6人	
		大阪大学	3. 8. 26～8. 30	8人	
		神戸大学	① 3. 11. 18～11. 22 ② 3. 11. 18、26～29	10人 11人	
		広島大学	3. 7. 30～8. 3	27人	
		九州大学	① 3. 6. 3～6. 7 ② 3. 6. 3、11～14	8人 8人	
		熊本大学	3. 10. 21～10. 25	10人	
		鹿児島大学	3. 9. 2～9. 6	8人	

研修等の種類	回次	期 間	修了者数	備 考
総合目録データベース実務研修	①	3. 9. 30～10. 25	16人	
	②	3. 11. 11～12. 6	16人	
ILLシステム講習会	①	4. 2. 17	28人	
	②	4. 2. 18	28人	
	③	4. 2. 19	28人	
	④	4. 2. 20	28人	
	⑤	4. 2. 21	28人	
NACSIS-IR講習	①	3. 7. 19	25人	入門コース
	追加	3. 8. 18	25人	” ①の追加講習
	②	3. 11. 22	25人	”
	追加	4. 12. 13	25人	” ②の追加講習
	③	4. 2. 7	28人	初級コース

研修等修了者数累計

研修等の種類	年 度						累計
	S 61	S 62	S 63	H 元	H 2	H 3	
目録システム講習会	112	202	343	344	401	345	1747
総合目録データベース実務研修	24	30	25	32	32	32	175
ILLシステム講習会						140	140
NACSIS-IR講習					22	128	150

2. シンポジウム

テ ー マ	期 日	会 場	参加者数
NACSIS事業の新たな展開に向けて	3. 11. 14	日本学術会議講堂 (東京)	162
	4. 2. 28	建設交流館グリーンホール (大阪)	141
計			303

平成4年度研修事業計画

平成4年度の研修等は、以下に示す概要、日程、参加手続きによって開催されます。

平成4年度 研修等の概要

講習等の種類	目 的	対 象
目録システム講習会	目録システムの運用に関する知識・技術の習得	目録システム接続及び接続予定機関の目録業務担当職員
目録システム講習会（地域講習会）	目録システムの運用に関する知識・技術の習得〔目録システム講習会の受講機会の拡大を図るため、学術情報センターで実施しているものと同等の講習会を各図書館等と共催で開催〕	目録システム接続及び接続予定機関の目録業務担当職員
総合目録データベース実務研修	目録所在情報サービスを利用している図書館等において、目録担当者の指導、地域講習会の講師等を行う高度な知識と技術を有する中核的人材の養成	目録所在情報サービスを利用している図書館等職員のうち目録システム講習会を修了し、かつ目録業務について十分な知識と経験を有する者
ILLシステム講習会	ILLシステムの運用に関する知識・技術の習得	ILLシステム業務担当の図書館等職員
NACSIS-IR講習（基礎コースⅠ）	情報検索に関する基礎的知識・技術の習得	図書館等において代行検索を行っている者のうち情報検索について初めてもしくは1年以内の者
NACSIS-IR講習（基礎コースⅡ）	情報検索に関する知識・技術の習得（研究者の要求に適合するデータベースの選択、応用的な検索マツドの習得、効果的な検索語の選定）	図書館等において代行検索を行っている者のうち基礎コースⅠ修了者または同等レベルの情報検索経験が1年以上3年未満の者
NACSIS-IR講習（総合コース）	情報検索に関する知識・技術の習得（基本的な検索マツドの習得、適切なデータベースの選択、目録系データベースの効率的な利用法）〔NACSIS-IR講習の受講機会の拡大を図るため、各図書館等と共催で開催〕	図書館等において代行検索を行っている業務担当職員等

【センターで開催される講習】

講習等の種類	回	期 間	定員	申込締切日	備 考
目録システム講習会	①	4. 5. 25～5. 29	28人	4. 17	
	②	4. 6. 22～6. 26	28人	4. 24	
	③	4. 7. 20～7. 24	28人	5. 22	
	④	4. 8. 24～8. 28	28人	6. 26	
	⑤	4. 10. 12～10. 16	28人	8. 14	
	⑥	4. 12. 7～12. 11	28人	10. 9	
総合目録データベース実務研修	①	4. 9. 21～10. 16	16人	7. 10	
	②	4. 11. 16～12. 11	16人	7. 10	
ILLシステム講習会	①	4. 5. 11～5. 12	28人	4. 17	
	②	4. 5. 14～5. 15	28人	4. 17	
	③	4. 6. 11～6. 12	28人	5. 8	
	④	4. 7. 9～7. 10	28人	6. 5	
	⑤	4. 8. 6～8. 7	28人	7. 3	
NACSIS-IR講習（基礎コースⅠ）	①	4. 6. 5	28人	5. 6	平成3年度開催の 入門コースと同等
	②	4. 7. 3	28人	6. 1	
	③	4. 9. 4	28人	8. 3	
NACSIS-IR講習（基礎コースⅡ）	①	4. 8. 18～8. 19	28人	7. 17	平成3年度開催の 初級コースと同等
	②	4. 10. 21～10. 22	28人	9. 11	

【大学を会場としてセンターとの共催で開催される講習】

NACSIS-IR講習（総合コース）

共催大学	期 間	定員	備 考
北海道大学	4. 7. 9～7. 10	18人	
立命館大学	4. 11. 30～12. 1	15人	
鹿児島大学			折衝中

目録システム講習会（地域講習会）

共催大学	回	1 日 目	2 日 目 以 降	定員	参加費	備 考
東京工業大学		4. 5. 18	4. 5. 19～5. 22	10人	A	他機関からの受入 5 名
筑波大学		4. 5. 25	4. 5. 26～5. 29	7人	A	他機関からの受入 3 名
熊本大学		4. 6. 1	4. 6. 2～6. 5	10人	B	他機関からの受入 6 名
九州大学	① ②	4. 6. 8 4. 6. 8	4. 6. 9～6. 12 4. 6. 16～6. 19	16人	A	他機関からの受入 8 名
金沢大学		4. 6. 15	4. 6. 16～6. 19	9人	B	他機関からの受入 5 名
東北大学		4. 7. 6	4. 7. 7～7. 10	20人	A	他機関からの受入 10 名
富山大学		4. 7. 13	4. 7. 14～7. 17	5人	A	他機関からの受入 3 名
富山医科薬科大学			4. 7. 14～7. 17	2人	A	他機関からの受入 1 名
広島大学		4. 7. 20	4. 7. 21～7. 24	20人	B	他機関からの受入 10 名
徳島大学	① ②	4. 7. 27 4. 7. 27	4. 7. 28～7. 31 4. 8. 3～8. 6	8人	B	他機関からの受入 4 名
信州大学		4. 8. 3	4. 8. 4～8. 7	7人	B	他機関からの受入 4 名
名古屋大学	① ②	4. 8. 10 4. 8. 10	4. 8. 11～8. 14 4. 8. 17～8. 20	34人	A	他機関からの受入 24 名
大阪大学	① ②	4. 8. 24 4. 8. 24	4. 8. 25～8. 28 4. 9. 1～9. 4	16人	A	他機関からの受入 8 名
一橋大学		4. 8. 31	4. 9. 1～9. 4	4人	B	受入はありません
神戸大学	① ②	4. 9. 7 4. 9. 7	4. 9. 8～9. 11 4. 9. 14～9. 18	20人	B	他機関からの受入 10 名
鹿児島大学		4. 9. 7	4. 9. 8～9. 11	8人	A	他機関からの受入 4 名
北海道大学		4. 9. 28	4. 9. 29～10. 2	14人	B	他機関からの受入 9 名
京都大学		4. 9. 28	4. 9. 29～10. 2	8人	A	他機関からの受入 4 名
東京大学	① ②	4. 10. 12 4. 10. 12	4. 10. 13～10. 16 4. 10. 27～10. 30	20人	A	他機関からの受入 10 名

平成4年度研修等日程表

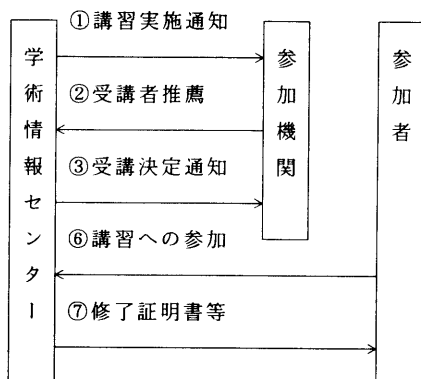
日 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
5	土	日	休	休	休				土	日	ILL①	ILL②	ILL②	土	土	土	日	東京工業大	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
6	→	→	熊本大	→	→	土	日	→	九州大①	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
7	→	→	IRI②	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
8	土	日	→	→	信州大	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
9	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
10	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
11	日	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
12	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

丸付数字 : 学術情報ネットワーク停止日 (13:00~17:00) 目録システム講習会
 : 開催回次 NACSIS-IR講習又は総合目録システム実務研修

研修等への参加手続

1. 手続の流れ（参加手続）

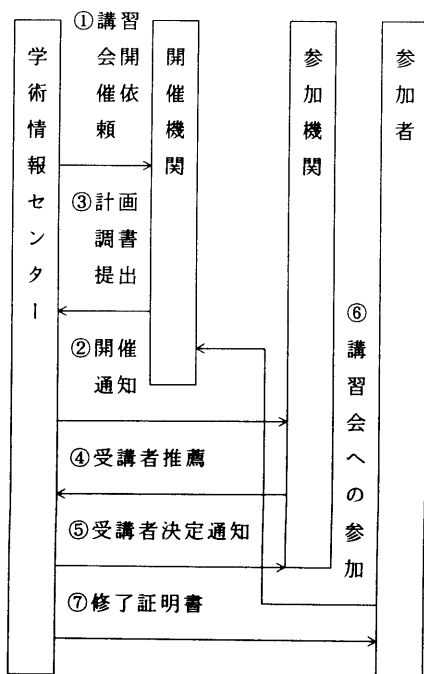
目録システム講習会（センター開催分）・総合
目録データベース実務研修・ILLシステム講習会
・NACSIS-IR講習（基礎コースⅠ・Ⅱ）



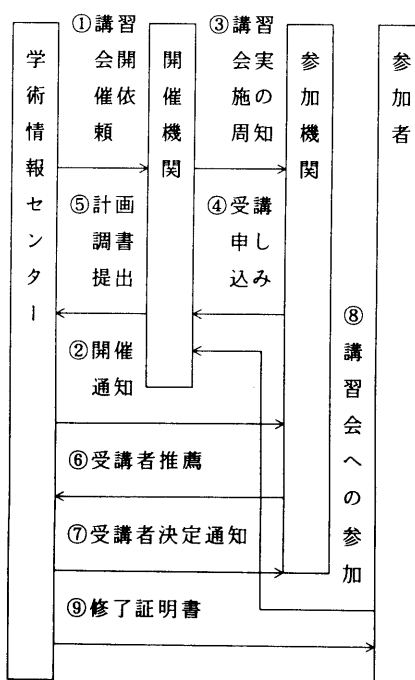
NACSIS-IR講習（総合コース）

目録システム講習会（地域講習会）の
開催方法AまたはBに準じますが、未定
です。

A 目録システム講習会（地域講習会）



B 目録システム講習会（地域講習会）



2. 申込及び受講者の決定

所定の推薦調書を添えて所属の長から学術情報センター所長へ御推薦ください。当センターにおいて選考の上、受講者を決定し、所属の長へ通知します。

- *実施要項等につきましては、年度当初に機関の長又は図書館長宛文書にて通知します。
- *参加希望等のお問い合わせは、地域講習会参加手続Bについては各開催機関（大学図書館）、それ以外は研修係で受け付けます。
- *学術情報センターには宿泊施設等はありませんので、予め御了承ください。
- *平成4年度研修事業計画は、事情により変更される場合もありますので予め御了承ください。

平成4年度の研修等では、新たにNACSIS-IR講習に「総合コース」が設定され、各大学図書館の御協力を得て、地域においても開催されることになりました。

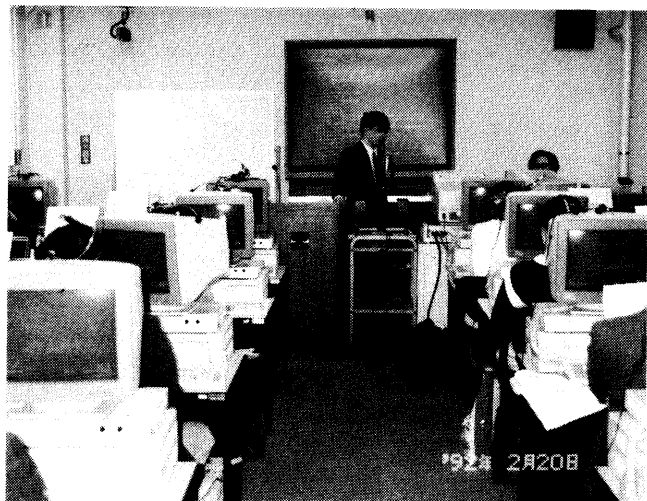
さらに、平成3年度実施のNACSIS-IR講習「入門コース」、「初級コース」は、それぞれ「基礎コースⅠ」（初心者及び経験1年未満）、「基礎コースⅡ」（基礎コースⅠ修了者又は経験1年以上3年未満）とし、受講者のレベル分けの徹底を図ります。

一方、目録システム講習会は、雑誌に関するカリキュラムを充実させるため、従来のセンター開催日程4日間を5日間に延長し、地域講習会においても講習時間を増やします。同様に、ILLシステム講習会も2日間に延長し、内容の充実を図ります。

また、センター開催分の講習（会）につきましては、昨年末のシステムの入替えに伴い、端末を増設し、従来の定員25名から28名に増加させました。

— お願い! —

目録登録の独習をなさる場合、目録システム講習会テキストを御使用になると講習会に影響することがありますので、日程に御注意ください。御不明の時は、研修係までお問い合わせください。



〈平成3年度 ILL システム講習会〉

(研修係)

平成3年度後期における会議等の開催

運営協議員会

平成3年度後期の学術情報センター運営協議員会は2回開催し、次のような審議・報告を行った。

1. 第15回（平成3年12月12日）於：学術情報センター分室会議室

議 事

1. 名誉教授選考規則の制定について
2. 教官の人事について

2. 第16回（平成4年2月24日）於：学術情報センター分室会議室

議 事

1. 規則の改正について
2. 教官の人事について
3. 平成3年度事業状況報告について
4. 平成4年度学術情報センター予算内示額の概要について

評 議 員 会

平成3年度後期の学術情報センター第13回評議員会は次のような議事について審議を行った。

1. 第13回（平成4年3月4日）於：学術情報センター別館会議室

議 事

1. 名誉教授称号授与規則の制定について
2. 規則の改正について
3. 教官の人事について
4. 平成3年度事業状況報告について
5. 研究開発部活動概要について
6. 平成4年度学術情報センター予算内示額の概要について

データベース委員会

平成3年度データベース委員会（委員長：根岸正光学術情報センター教授）が、平成4年2月19日（火）に開催された。

平成3年度のデータベース関係事業の実施状況に関し、①情報検索サービスの運用状況、

②情報検索サービスの拡充及びデータベースの作成状況、③学術情報センターにおける大学等の研究者等提供データベースの受入状況、④研究プロジェクト情報の国際交換、⑤NACSIS-IR 講習の実施、⑥ NACSIS-IR 利用端末調査および利用者懇談会の実施、について報告した。

引き続き、①平成4年度情報検索サービス計画、②平成4年度講習実施計画、③平成4年度データベース作成計画について協議し、原案どおり了承された。また、新規作成データベースについて意見交換を行った。

ネットワーク委員会

平成3年度第1回ネットワーク委員会（委員長：浅野正一郎学術情報センター教授）が平成4年2月12日に開催された。

前回議事要旨を確認した後、報告事項として、①平成3年度学術情報ネットワーク国内整備状況、②平成3年度学術情報ネットワーク国際整備状況及びCCIRNの概要、③平成3年度電子メールシステム整備状況、④平成3年度学術情報ネットワーク懇談会、⑤平成4年度予算（案）の各事項について報告した。

また、審議事項として、インターネット・バックボーン（SINET）の運用開始に伴う学術情報ネットワーク関連規則等の改正について審議し、「学術情報ネットワーク整備要項」、「国際ネットワーク整備要項」、「学術情報ネットワークの加入に関する実施細則」の改正が了承された。

課金委員会

平成3年度第1回課金委員会が、平成4年2月20日（木）に開催された。

まず、前回議事録案の確認の後、①平成3年度サービス開始データベースの概要について、②利用料金の省令化について、③学術情報センター事業の概要について（(1)新システム概要、(2)国際事業、(3)ネットワーク事業、(4)情報検索サービス、(5)目録所在情報サービス、(6)学術情報センターサービスの利用登録及び利用状況）について報告があった。

引き続き、新規サービス予定データベース利用料金について協議し、①木簡データベース、②学協会集会スケジュール（仮称）、③会議開催予定一覧（仮称）について『接続料30円／回』の利用料金とすることが承認された。

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	異 動 内 容 (退 職)	旧 官 職 等
4. 1. 31	上野 由紀子	辞職	事業部データベース課

学術情報センター日誌

〔平成3年12月10日～平成4年3月6日〕

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 12.10 韓国ソウル大学計算機センター長Kern koh氏来訪 | 1.29 第11回公開講演会 |
| 12.11 エンサイクロペディア・ブリタニカ会長F.Gibney氏一行来訪 | 「東アジア文字データの国際交換に関する実証研究」(東京医科歯科大) |
| 12.11 国立国会図書館からILLシステム見学のため来訪 | 1.30 千葉県図書館館長等11名見学のため来訪 |
| 12.12 第15回運営協議会 | 2.3 日本工業技術振興会井戸田専務来訪 |
| 〃 文部省銭谷学習情報課長一行来訪 | 2.7 第3回NACSIS-IR講習会(初級コース) |
| 12.13 第2回NACSIS-IR追加講習会 | 2.13 国際協力事業団研修生(14名)見学のため来訪 |
| 〃 カーネギーメロン大学John Leong氏来訪 | 2.17 ILLシステム講習会 ～21日迄 |
| 12.18 総務庁統計局から来訪 | 2.24 第16回運営協議会 |
| 12.20 慶應義塾大学北川・元計算機センター所長来訪 | 〃 英国図書館研究開発部長Brian Perry氏来訪 |
| 12.24 猪瀬所長文化勲章受章祝賀会(東京ガーデンバース) | 2.26 国立教育会館北野課長他一行来訪 |
| 12.24 英国大使館科学部山内氏来訪 | 〃 国際交流基金日本語国際センター研修生一行(14名)来訪 |
| 平成4年 | 2.28 平成3年度学術情報センターシンポジウム(大阪会場) |
| 1.23 文部省鳴野学術情報課長ほか3名来訪 | 3.4 第13回評議員会 |
| 1.24 国際協力事業団沖縄国際センター研修生(15名)見学のため来訪 | 3.6 職業訓練大学校早川校長来訪 |
| 1.27 横浜国立大図書館下村情報管理課長他一行来訪 | |
| 〃 大学入試センター服部情報処理課長他一行来訪 | |
| 1.28 韓国国立中央図書館長Hee-Chun Chung氏一行来訪 | |

海外渡航一覧

- | | |
|---|--|
| 12.7～12.14 金助手(英国) | 2.1～2.10 山田研究開発部長、由良データベース課課長補佐(イタリア、オランダ) |
| 平成4年 | |
| 1.12～1.23 井上教授(米国) | 2.3～2.9 浅野教授(米国) |
| 1.18～1.26 宮澤教授、橋爪助教授、小沼会計課長、船渡川文献データベース係長(英国) | 2.20～2.23 浅野教授(シンガポール) |
| | 2.24～3.1 内藤教授(台湾) |
| 1.26～2.8 貝田国際事業係長(米国) | |

学術情報センターニュース(第19号)

1992年3月31日発行

発行人 猪瀬 博

発行 学術情報センター 東京都文京区大塚3丁目29番地1号(〒112)

電話 (03)3942-6937(直通) 情報・資料係

研究者の皆様へ

財団法人 電気・電子情報学術振興財団 主催

「NACSIS-IR」情報検索講習会の御案内

本財団は、電気、電子、情報に関する学術の研究並びに応用を振興するため、電気、電子、情報に関する学術研究の助成及び学術情報の提供を行うことを目的に、昭和18年に文部省の許可を得て設立された公益法人であります。

平成3年3月には、「NACSIS-IR総合マニュアル」を発行し、学術情報センターの情報検索サービス（NACSIS-IR）の利用者の方々に広く御利用いただいているところですが、本年2月に学術情報センターの御協力を得て、研究者の皆様を対象とした入門レベルの講習を企画・実施いたしましたところ大変ご好評を得ましたので、再度開催することといたしました。

これからNACSIS-IRを利用したい、利用したいが接続方法がわからない、接続はできてもうまく検索ができない、といった方々にきっとお役に立つ講習であると存じますので、ふるって御参加下さいますよう御案内申し上げます。

平成4年3月

（財）電気・電子情報学術振興財団理事長

東京大学教授 大 越 孝 敬

「NACSIS-IR」情報検索講習会実施要項

1 趣 旨

学術情報センター情報検索サービス（NACSIS-IR）の利用方法等の知識・技術について入門レベルの講習を実施し、大学等の研究者の学術情報入手の利便に資する。

2 主 催

財団法人 電気・電子情報学術振興財団

3 対 象

大学、大学共同利用機関、短期大学、高等専門学校等の研究者

4 定 員

25人

5 期 間

平成4年6月1日（月）・2日（火）

6 会 場

学術情報センター

7 講習内容

別表1のとおり

8 日 程

別表2のとおり

9 申込方法

官製葉書に①氏名、②所属、③郵便番号、④住所、⑤連絡先の電話番号を記入の上、平成4年5月11日（月）までにお申込み下さい。

なお、申込者が多数の場合は抽選とさせていただきます。また、定員に充たない場合は中止させていただくこともありますので悪しからず御了承賜りますようお願い申し上げます。（受講の可否等につきましては、おって当方より連絡させていただくこととしております。）

10 経 費

受講料として、5,000円を当日講習会場で徴収させていただきます。

11 申込・問合せ先

学術情報センター気付 電気・電子情報学術振興財団

住 所 〒112 東京都文京区大塚3-29-1

電 話 (03) 3942-5674 (直通)

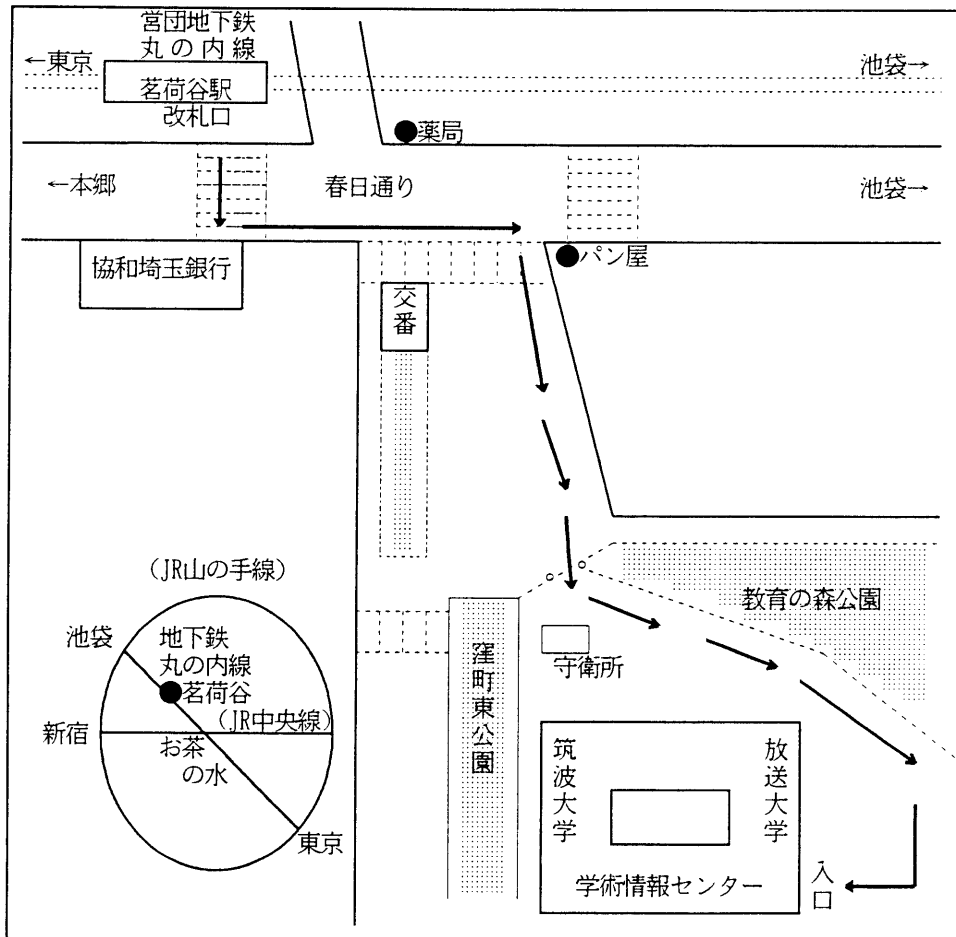
(別表1) 講習内容

事 項	主 な 内 容
端末操作	1 NACISIS-IRへの接続方法 2 端末の操作方法
検索コマンド (Ⅰ)、(Ⅱ)	1 情報検索について 2 SEARCH、PHRASE、AND、OR、 REMINDE、DISPLAYの使い方 3 LOOK、DISPLAY(目録系)の使い方 4 その他の検索コマンドの機能
演習(Ⅰ)、(Ⅱ)	1 検索例による検索の実際
実習	1 問題集による検索の実際 2 受講者の検索課題に応じた検索の実際

(別表2) 日 程

月／日 (曜)	17:15 20:20					
6/1 (月)	受 付	開 日 講 程 明 式 説 等	17:15 17:45 端末操作	18:00 検索コマンド(Ⅰ)	19:45 演習(Ⅰ)	20:15
6/2 (火)			17:15 検索コマンド(Ⅱ)	19:15 演習(Ⅱ)	19:45 実習	20:15 閉 講 式

<会場案内図>



営団地下鉄丸の内線茗荷谷駅下車 徒歩3分

近日発売予定！

「NACSI S-IR総合マニュアル改訂版」

編 集：学術情報事務研究会
 発 行：電気・電子情報学術振興財団
 体 裁：A4版
 価 格：7,000円
 取扱書店：紀伊國屋
 丸善